資料２

令和６年県民意識調査結果報告書

【概要版】

令和７年３月
宮　　城　　県

目　次

I 調査の概要 2

1 調査の趣旨 2
2 調査の実施状況 2
3 調査結果の見方 3

II 調査結果 4

1 新・宮城の将来ビジョンについて 4
（１） つくる１　全産業で、先進的取組と連携によって新しい価値をつくる 4
（２） つくる２　産業人材の育成と産業基盤の活用によって持続的な成長の基礎をつくる 6
（３） つくる３　子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる 8
（４） つくる４　社会を生き、未来を切りひらく力をはぐくむ教育環境をつくる 10
（５） つくる５　一人ひとりがいきいきと豊かに生活できる環境をつくる 12
（６） つくる６　健康で、安全安心に暮らせる地域をつくる 14
（７） つくる７　自然と人間が共存共栄する社会をつくる 16
（８） つくる８　世代を超えて安全で信頼のある強くしなやかな県土をつくる 18
2 テーマ別項目 22
（１） 暮らしの満足度について 22
（２） 防災意識について 28
（３） 宮城県の復旧・復興の進捗状況について 29
（４） デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）について 31
（５） 宮城県の地域公共交通について 34
（６） 犯罪被害者等支援について 37
（７） アドバンス・ケア・プランニング＜ＡＣＰ＞（人生会議）について 39
（８） 宮城県の治安について 42

III 参考資料 44

回答者属性一覧 44

Ⅰ　調査の概要

１　調査の趣旨

この調査は、行政活動の評価に関する条例（平成 13 年宮城県条例第 70 号）第 7 条の規定により実施するもので、「新・宮城の将来ビジョン」に関する取組について、県民がどの程度重視しているか、満足しているか、また今後どのようなことを優先的に取り組むべきと考えているかなどを調査しています。その結果は公表するとともに、県の政策評価・施策評価や事業の企画立案などに活用します。

２　調査の実施状況

①調査対象

宮城県に居住する 18 歳以上の方　4,000 人（選挙人名簿等から無作為抽出）

②調査方法

郵送配布、郵送・インターネット・デジタル身分証アプリ（ポケットサイン）による回答

③調査期間

令和 6 年 11 月 22 日（金）から令和 6 年 12 月 20 日（金）まで

④調査項目

○「新・宮城の将来ビジョン」に基づく８政策の重視度、満足度等に関する項目
○回答者属性及び調査方法等に関する項目
　このほか、テーマ別項目の調査を実施

⑤回収結果

○回収数 1,681 件　有効回答数 1,673 件
○回収率　42.0%　有効回答率　41.8%
○有効回答の構成比
・郵送回答数 1,408 件（84.2%）
・インターネット回答 244 件（14.6%）
・デジタル身分証アプリ回答 21 件（1.3%）

３　調査結果の見方

○比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。
　このため、百分率の計が 100％にならないことがあります。

○本調査は無作為抽出調査であるため、調査結果を見る際には、母集団から標本（調査対象）を抽出することによって生じる「標本誤差（母集団全体を調査した場合に得られる真の値との差)」を考慮する必要があります。

　今回の調査結果の標本誤差は、約±2％と見ることができます。
　（例：今回の調査結果において、設問中の選択肢の「重要」の回答比率が 60％であった場合、その回答比率の誤差の範囲は約±2％以内（真の値が 58％～62％以内にある）と見ることができます。）

○ｎ（number of cases）とは、設問ごとに無回答者数を除いた回答者総数のことです。

○この調査で用いている用語の意義は、次のとおりです。
・「高重視群割合」とは、重視度に関する設問で、「重要」、「やや重要」と回答した割合を合わせたものです。
・「低重視群割合」とは、重視度に関する設問で、「あまり重要でない」、「重要でない」と回答した割合を合わせたものです。

・「満足群割合」とは、満足度に関する設問で、「満足」、「やや満足」と回答した割合を合わせたものです。
・「不満群割合」とは、満足度に関する設問で、「やや不満」、「不満」と回答した割合を合わせたものです。

・「仙南圏域」とは、白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町及び丸森町の 9 市町です。
・「仙台圏域」とは、仙台市（青葉区、宮城野区、若林区、太白区、泉区)、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町及び大衡村の 14 市町村です。
・「大崎圏域」とは、大崎市、色麻町、加美町、涌谷町及び美里町の 5 市町です。
・「栗原圏域」とは、栗原市の 1 市です。
・「登米圏域」とは、登米市の 1 市です。
・「石巻圏域」とは、石巻市、東松島市及び女川町の 3 市町です。
・「気仙沼・本吉圏域」とは、気仙沼市及び南三陸町の 2 市町です。

II　調査結果

1　新・宮城の将来ビジョンについて

「新・宮城の将来ビジョン」に基づく取組について、８つの「つくる」ごとに「重視度」、「満足度」及び「今後優先すべきと思うテーマ」を調査したところ、次のような結果となりました。

（1）つくる１　全産業で、先進的取組と連携によって新しい価値をつくる

取　組	テーマ
1　産学官連携によるものづくり産業等の発展と研究開発拠点等の集積による新技術・新産業の創出	1　県内に新たな企業を呼び込み、最新技術の活用を進める 2　研究開発の拠点を集め、企業、大学と連携して地域産業を活性化する 3　ものづくり産業の発展を支援する
2　宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興	4　地域の持ち味を活かし、収益力が高い観光産業を実現する 5　魅力的な観光地づくりや効果的な観光情報の発信により、観光客を増やす 6　高齢化や過疎化などで衰退した商業・サービス業を復活させる
3　地域の底力となる農林水産業の国内外への展開	7　農林水産業や食産業を将来にわたり発展させる 8　農林水産物の国内外へのＰＲや、生産管理を支援する 9　食の安全・安心を確保する

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は、75.3%となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は40.9%、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は33.7%となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「９　食の安全・安心を確保する（41.8%）」で、次いで「１　県内に新たな企業を呼び込み、最新技術の活用を進める（39.7%）」、「６　高齢化や過疎化などで衰退した商業・サービス業を復活させる（38.9%）」の順となっています。

図　1　重視度割合　（県全体）

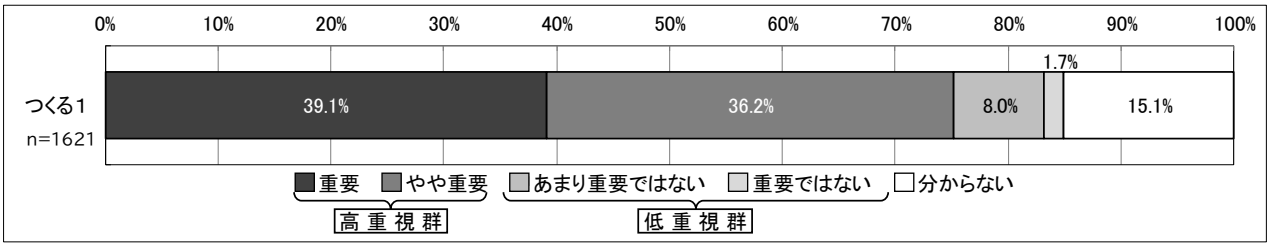


表　1　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる1	75.3%	79.0%	72.5%	75.3%	74.8%	75.7%	76.8%	76.4%	73.0%	79.0%	76.5%	74.4%	71.7%

図 ２　満足度割合　（県全体）

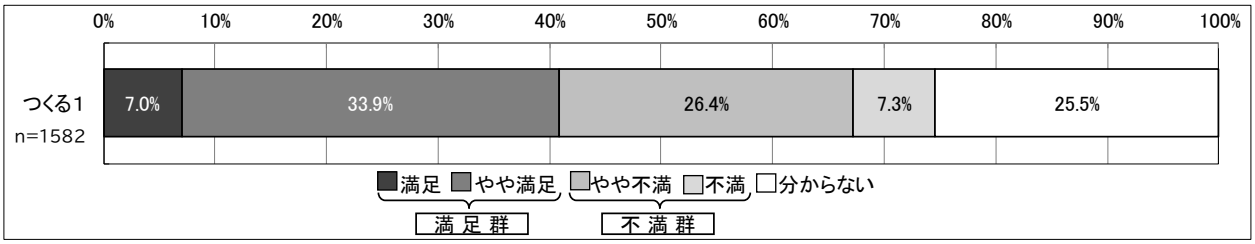


表 ２　満足群割合　（回答者属性別）

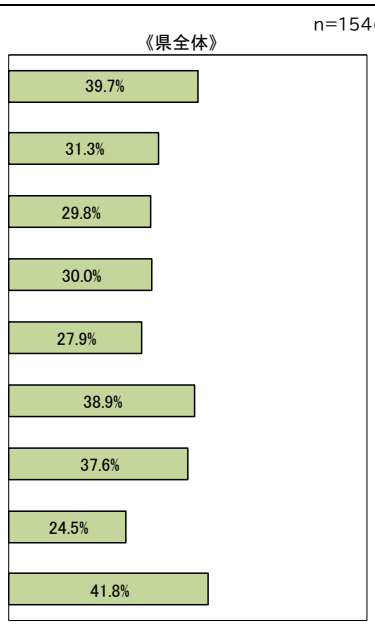
区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる1	40.9%	44.7%	38.3%	48.8%	39.9%	39.7%	45.1%	41.2%	37.4%	39.7%	44.6%	44.0%	37.3%

表 ３　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる1	33.7%	36.5%	30.7%	24.8%	36.8%	33.6%	30.2%	33.5%	36.6%	35.9%	35.3%	32.1%	30.7%

図 ３　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取　組		テーマ
1　産学官連携によるものづくり産業等の発展と研究開発拠点等の集積による新技術・新産業の創出	1	県内に新たな企業を呼び込み、最新技術の活用を進める
	2	研究開発の拠点を集め、企業、大学と連携して地域産業を活性化する
	3	ものづくり産業の発展を支援する
2　宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興	4	地域の持ち味を活かし、収益力が高い観光産業を実現する
	5	魅力的な観光地づくりや効果的な観光情報の発信により、観光客を増やす
	6	高齢化や過疎化などで衰退した商業・サービス業を復活させる
3　地域の底力となる農林水産業の国内外への展開	7	農林水産業や食産業を将来にわたり発展させる
	8	農林水産物の国内外へのＰＲや、生産管理を支援する
	9	食の安全・安心を確保する



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（２）つくる２　産業人材の育成と産業基盤の活用によって持続的な成長の基礎をつくる

取　組	テーマ
４　時代と地域が求める産業人材の育成と活躍できる環境の整備	１　県内への就職・就業を進め、人材を育て、担い手を確保する ２　誰もが希望どおり働き続けるための環境を整える ３　リカレント教育を支援する ４　個人や企業の事業アイデアの実現や経営力の強化を支援する
５　時代に対応した宮城・東北の価値を高める産業基盤の整備・活用	５　空港や港湾、漁港、道路、農地、森林等を整備する ６　空港や港湾、漁港、道路、農地、森林等の産業基盤を有効活用する ７　他地域から東北に呼び込むゲートウェイ機能を強化する

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 80.8％となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 38.2％、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 38.4％となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「１　県内への就職・就業を進め、人材を育て、担い手を確保する（70.5％）」で、次いで「２　誰もが希望どおり働き続けるための環境を整える（49.2％）」、「３　リカレント教育を支援する（28.3％）」の順となっています。

図　４　重視度割合　（県全体）

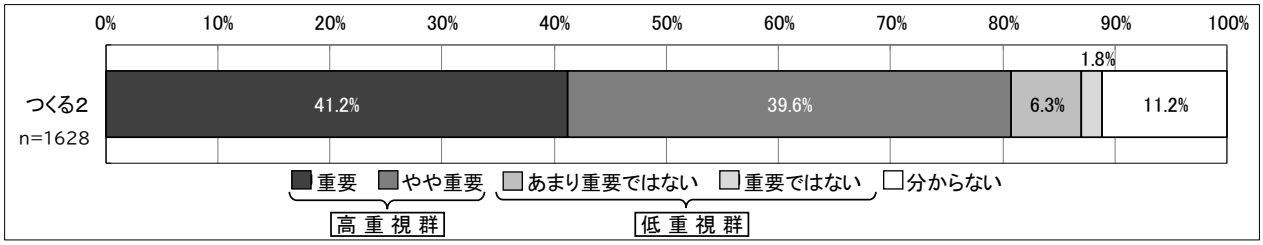


表　４　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年代別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる2	80.8%	83.9%	78.1%	80.4%	81.1%	80.5%	83.5%	81.0%	82.0%	81.7%	83.2%	81.1%	71.8%

図 5　満足度割合　（県全体）

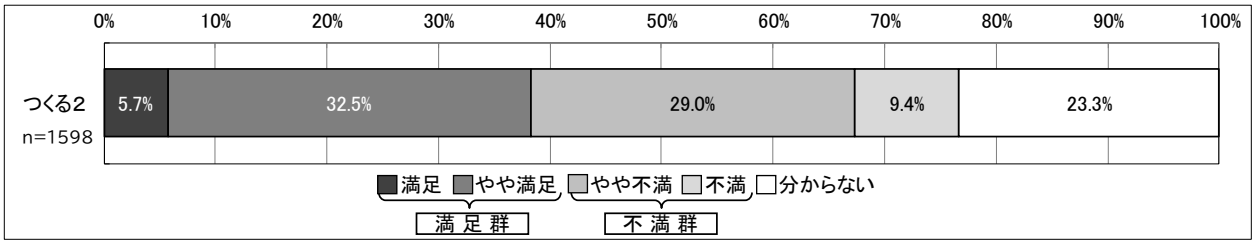


表 5　満足群割合　（回答者属性別）

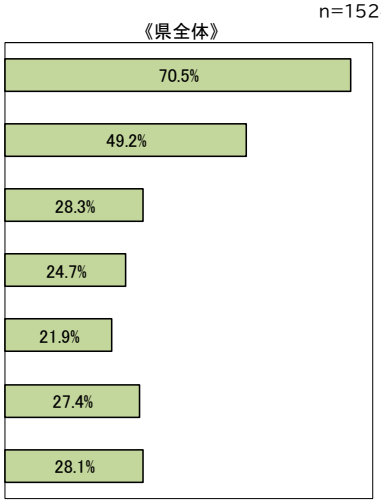
区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる2	38.2%	40.4%	36.8%	45.7%	38.0%	36.8%	40.6%	38.0%	35.6%	40.7%	41.3%	41.1%	32.5%

表 6　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる2	38.4%	41.5%	35.7%	31.3%	40.7%	38.7%	37.7%	35.2%	43.3%	38.7%	40.8%	37.8%	34.5%

図 6　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取組		テーマ
4　時代と地域が求める産業人材の育成と活躍できる環境の整備	1	県内への就職・就業を進め、人材を育て、担い手を確保する
	2	誰もが希望どおり働き続けるための環境を整える
	3	リカレント教育を支援する
	4	個人や企業の事業アイデアの実現や経営力の強化を支援する
5　時代に対応した宮城・東北の価値を高める産業基盤の整備・活用	5	空港や港湾、漁港、道路、農地、森林等を整備する
	6	空港や港湾、漁港、道路、農地、森林等の産業基盤を有効活用する
	7	他地域から東北に呼び込むゲートウェイ機能を強化する



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（3）つくる３　子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる

取　組	テーマ
6　結婚・出産・子育てを応援する環境の整備	1　結婚・妊娠・出産を望む人たちを支援する 2　子育て家庭の心理的・経済的な負担を少なくする 3　安心して子育てができるような職場や社会の環境をつくる
7　家庭・地域・学校の連携・協働による子どもを支える体制の構築	4　すべての子どもが健やかに育ち、安心して教育を受けられる環境をつくる 5　社会全体で虐待から児童を守る 6　子どもが基本的な生活習慣などを身に付けられるように家庭を支援する 7　家庭・地域・学校が協力できるような仕組みを強化する

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 87.9%となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 35.2%、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 47.6%となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは「３　安心して子育てができるような職場や社会の環境をつくる（67.6%）」で、次いで「２　子育て家庭の心理的・経済的な負担を少なくする（52.6%）」、「４　すべての子どもが健やかに育ち、安心して教育を受けられる環境をつくる（52.5%）」の順となっています。

図 7　重視度割合　（県全体）

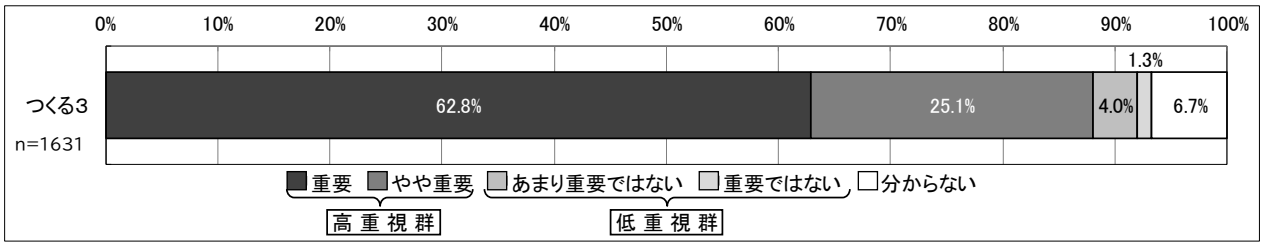


表 7　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる3	87.9%	88.2%	87.5%	86.9%	88.6%	87.6%	90.0%	87.6%	91.3%	91.8%	88.7%	85.2%	79.3%

図 8　満足度割合　（県全体）

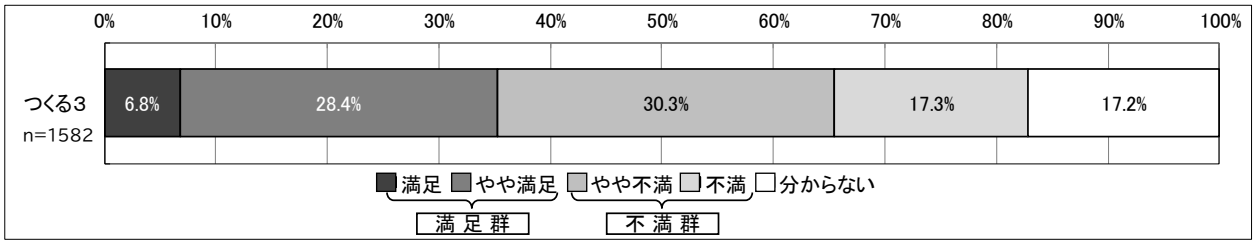


表 8　満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる3	35.2%	34.4%	36.3%	37.9%	33.1%	36.4%	35.4%	31.7%	35.0%	36.5%	31.6%	41.5%	36.1%

表 9　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる3	47.6%	50.2%	45.2%	46.7%	51.7%	44.4%	44.6%	49.8%	51.5%	49.2%	54.0%	42.0%	40.8%

図 9　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取　組		テーマ	《県全体》
6　結婚・出産・子育てを応援する環境の整備	1	結婚・妊娠・出産を望む人たちを支援する	52.0%
	2	子育て家庭の心理的・経済的な負担を少なくする	52.6%
	3	安心して子育てができるような職場や社会の環境をつくる	67.6%
7　家庭・地域・学校の連携・協働による子どもを支える体制の構築	4	すべての子どもが健やかに育ち、安心して教育を受けられる環境をつくる	52.5%
	5	社会全体で虐待から児童を守る	39.4%
	6	子どもが基本的な生活習慣などを身に付けられるように家庭を支援する	29.4%
	7	家庭・地域・学校が協力できるような仕組みを強化する	42.5%

n=1539

※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（4）つくる４　社会を生き、未来を切りひらく力をはぐくむ教育環境をつくる

取　組	テーマ
8　多様で変化する社会に適応し、 活躍できる力の育成	1　他の人と協調し、人を思いやる心や、自然や美しいものに感動する心などをはぐくむ 2　基礎的な学力や考える力・表現する力を高める 3　最新技術や国際化に対応するための能力をはぐくむ 4　健康な身体づくりや体力・運動能力の向上を進める
9　安心して学び続けることができる 教育体制の整備	5　子どもたちが行きたくなるような学校づくりを進める 6　多様な子どもたちに合わせた教育体制をつくる 7　いじめの防止対策や学校に登校していない児童生徒一人ひとりに応じた支援を行う 8　教職員のスキルアップや働きやすい学校づくりに取り組む

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 88.1％となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 37.4％、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 43.0％となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「１　他の人と協調し、人を思いやる心や、自然や美しいものに感動する心などをはぐくむ（56.0％）」で、次いで「２　基礎的な学力や考える力・表現する力を高める（51.5％）」、「４　健康な身体づくりや体力・運動能力の向上を進める（47.0％）」の順となっています。

図　１０　重視度割合　（県全体）

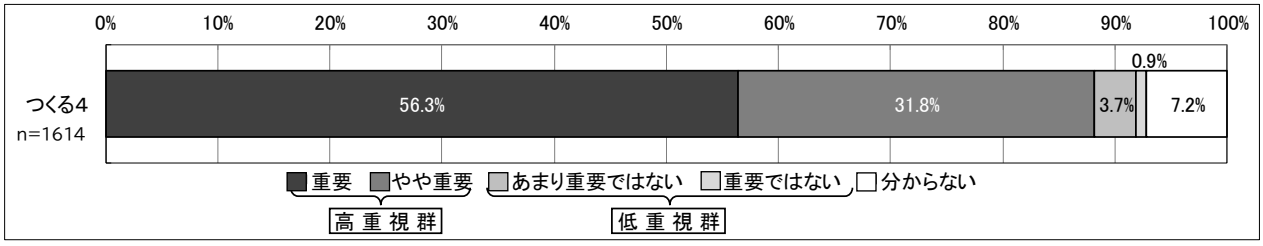


表　１０　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる4	88.1%	88.9%	87.5%	88.8%	88.0%	87.9%	90.1%	87.6%	90.0%	91.0%	89.1%	87.8%	79.3%

図 １１　満足度割合　（県全体）

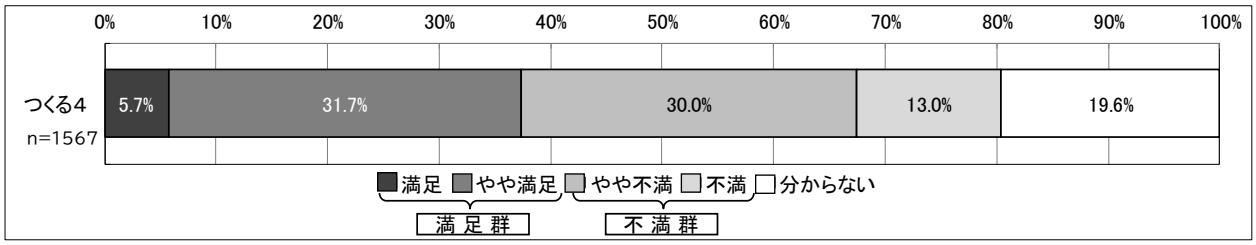


表 １１　満足群割合　（回答者属性別）

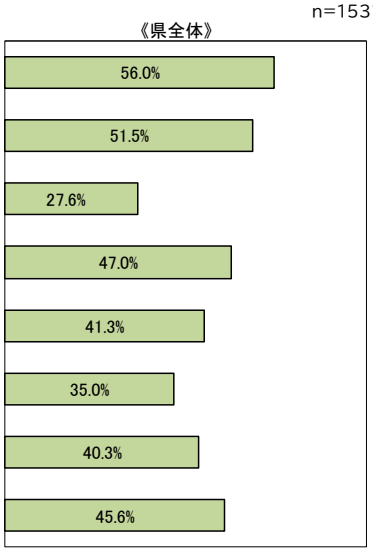
区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる4	37.4%	37.3%	37.8%	41.0%	35.4%	38.0%	35.9%	36.4%	37.9%	36.8%	37.8%	42.9%	35.1%

表 １２　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる4	43.0%	45.5%	40.5%	40.2%	46.3%	41.4%	43.7%	41.3%	43.8%	47.7%	43.9%	40.1%	39.2%

図 １２　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取　組		テーマ
8　多様で変化する社会に適応し、活躍できる力の育成	1	他の人と協調し、人を思いやる心や、自然や美しいものに感動する心などをはぐくむ
	2	基礎的な学力や考える力・表現する力を高める
	3	最新技術や国際化に対応するための能力をはぐくむ
	4	健康な身体づくりや体力・運動能力の向上を進める
9　安心して学び続けることができる教育体制の整備	5	子どもたちが行きたくなるような学校づくりを進める
	6	多様な子どもたちに合わせた教育体制をつくる
	7	いじめの防止対策や学校に登校していない児童生徒一人ひとりに応じた支援を行う
	8	教職員のスキルアップや働きやすい学校づくりに取り組む



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（５）つくる５　一人ひとりがいきいきと豊かに生活できる環境をつくる

取　組	テーマ
10　就労や地域活動を通じた多様な主体の社会参画の促進	1　誰もが自分らしく活躍できる雇用環境の整備、就労を支援する 2　女性や高齢者等が活躍できる社会をつくる 3　地域のつながりを強化し活性化させる 4　外国人が活躍しやすい社会をつくる
11　文化芸術・スポーツ活動と生涯学習の振興	5　県民が行う文化芸術活動への支援や文化芸術に親しむ機会を増やす 6　文化芸術やスポーツの持つ力を様々な分野で活用する 7　アスリートへの支援や県民がスポーツを楽しむ機会を増やす 8　様々な学びの機会を提供し、人材育成を進める

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 77.3％となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 38.5％、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 39.5％となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「１　誰もが自分らしく活躍できる雇用環境の整備、就労を支援する（62.5％）」で、次いで「２　女性や高齢者等が活躍できる社会をつくる（49.9％）」、「８　様々な学びの機会を提供し、人材育成を進める（48.3％）」の順となっています。

図　１３　重視度割合　（県全体）

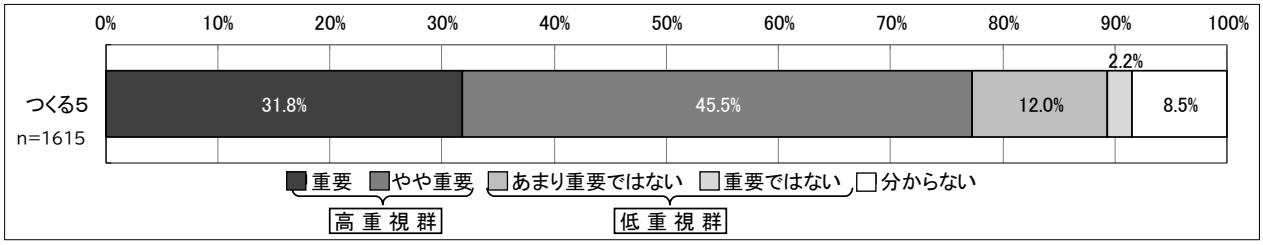


表　１３　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる5	77.3%	76.1%	77.9%	72.2%	75.3%	80.0%	80.2%	77.0%	78.3%	75.0%	80.5%	78.0%	71.5%

図 １４　満足度割合　（県全体）

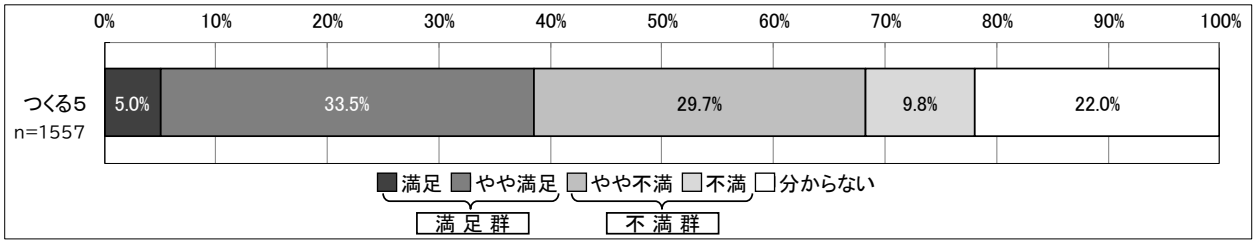


表 １４　満足群割合　（回答者属性別）

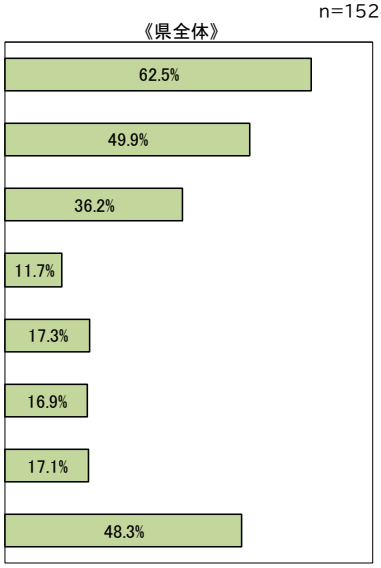
区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる5	38.5%	40.1%	37.6%	42.5%	36.5%	39.1%	37.7%	38.1%	36.9%	36.4%	39.1%	46.5%	36.7%

表 １５　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる5	39.5%	41.6%	37.1%	33.0%	42.2%	39.0%	40.3%	38.1%	41.6%	44.5%	40.9%	32.1%	36.7%

図 １５　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取　組		テーマ
10　就労や地域活動を通じた多様な主体の社会参画の促進	1	誰もが自分らしく活躍できる雇用環境の整備、就労を支援する
	2	女性や高齢者等が活躍できる社会をつくる
	3	地域のつながりを強化し活性化させる
	4	外国人が活躍しやすい社会をつくる
11　文化芸術・スポーツ活動と生涯学習の振興	5	県民が行う文化芸術活動への支援や文化芸術に親しむ機会を増やす
	6	文化芸術やスポーツの持つ力を様々な分野で活用する
	7	アスリートへの支援や県民がスポーツを楽しむ機会を増やす
	8	様々な学びの機会を提供し、人材育成を進める



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（6）つくる６　健康で、安全安心に暮らせる地域をつくる

取　組	テーマ
12　生涯を通じた健康づくりと持続可能な医療・介護サービスの提供	1　心と身体の健康を保てるよう、あらゆる世代への支援体制を強化する 2　日常の医療から高度な医療まで、切れ目のない医療サービス提供体制をつくる 3　感染症の発生及びまん延を防ぎ、必要な医療を受けられる体制をつくる 4　介護予防や生活支援サービスの充実・介護人材の確保などを進め、高齢者が安心して暮らせる地域をつくる
13　障害の有無に関わらず安心して暮らせる社会の実現	5　障害や障害者に対する理解・関心を深め、障害のある人もない人も共に支え合う社会をつくる 6　誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める 7　障害者や難病患者等が安心して暮らせるよう、福祉サービスを充実させる
14　暮らし続けられる安全安心な地域の形成	8　生活に必要な交通手段を提供する事業者を支援し、地域に適した移動手段を確保する 9　商店街の魅力を高め、地域のにぎわいをつくる 10　地域が一体となって、犯罪や交通事故などが起きにくい環境をつくる

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 90.5％となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 39.1％、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 45.3％となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「４　介護予防や生活支援サービスの充実・介護人材の確保などを進め、高齢者が安心して暮らせる地域をつくる（57.7％）」で、次いで「２　日常の医療から高度な医療まで、切れ目のない医療サービス提供体制をつくる（55.0％）」、「８　生活に必要な交通手段を提供する事業者を支援し、地域に適した移動手段を確保する（47.5％）」の順となっています。

図　１６　重視度割合　（県全体）

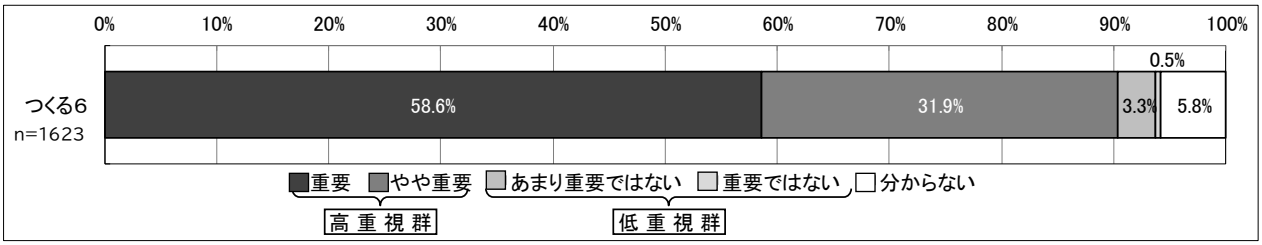


表　１６　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる6	90.5%	90.0%	90.8%	86.0%	91.1%	91.5%	91.6%	89.6%	91.6%	90.5%	93.6%	90.0%	87.2%

図 １７　満足度割合　（県全体）

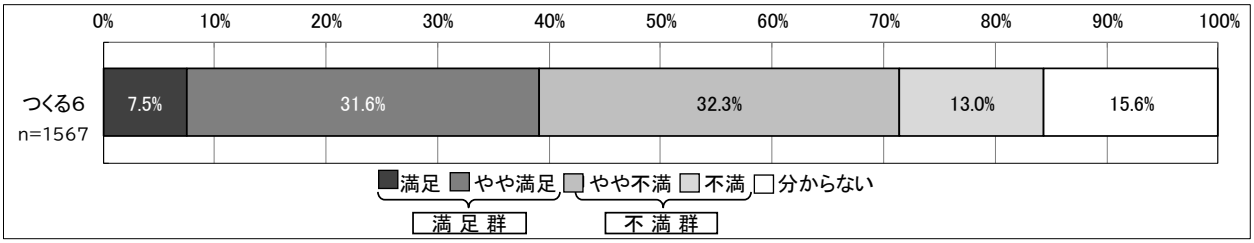


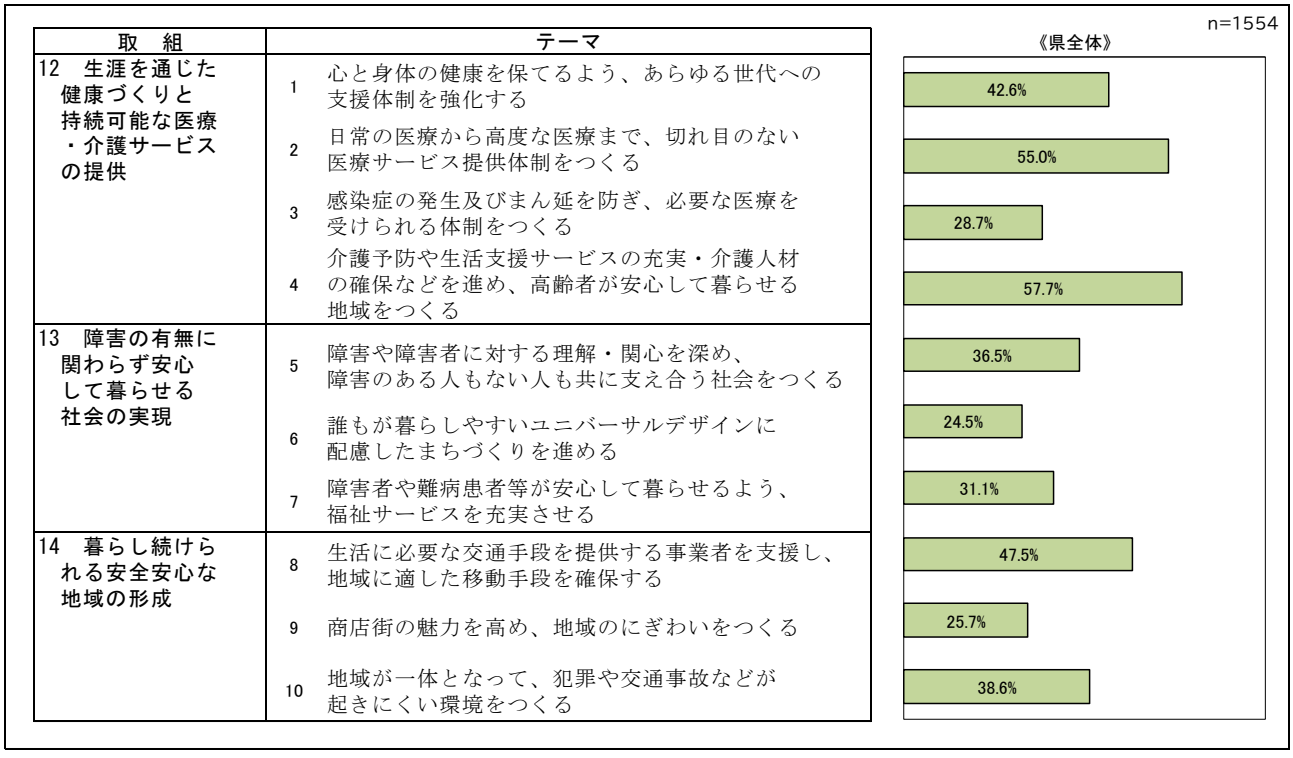
表 １７　満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる6	39.1%	41.1%	37.9%	45.1%	35.2%	40.3%	40.0%	37.1%	39.8%	37.3%	40.6%	42.4%	37.2%

表 １８　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる6	45.3%	45.9%	44.5%	35.7%	48.8%	45.7%	45.6%	45.4%	46.4%	48.4%	45.3%	42.0%	43.5%

図 １８　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（7）つくる７　自然と人間が共存共栄する社会をつくる

取　組	テーマ
15　環境負荷の少ない地域経済システム・生活スタイルの確立	1　環境汚染の防止や地球温暖化対策をはじめとする環境問題への理解を深め、環境にやさしい行動をする 2　エネルギーを無駄なく使い、再生可能エネルギーの利用を増やす 3　環境問題の解決につながる産業を成長させる 4　ゴミを減らしながら、できるだけ再利用やリサイクルをする 5　ゴミの不法投棄等をなくし、正しく処分する
16　豊かな自然と共生・調和する社会の構築	6　地域の生き物がこれからも暮らし続けられる自然環境を守る 7　森林や水辺、農山漁村について学べる環境をつくる 8　農村・漁村、森林など地域の豊かな恵みを守りながら、色々な面で積極的に活用する 9　農村・漁村の暮らしや景観等を活かして都市部から人を呼び込む

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 81.0%となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 36.7%、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 40.1%となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「１　環境汚染の防止や地球温暖化対策をはじめとする環境問題への理解を深め、環境にやさしい行動をする（51.8%）」で、次いで「４　ゴミを減らしながら、できるだけ再利用やリサイクルをする（49.3%）」、「２　エネルギーを無駄なく使い、再生可能エネルギーの利用を増やす（44.8%）」の順となっています。

図　１９　重視度割合　（県全体）

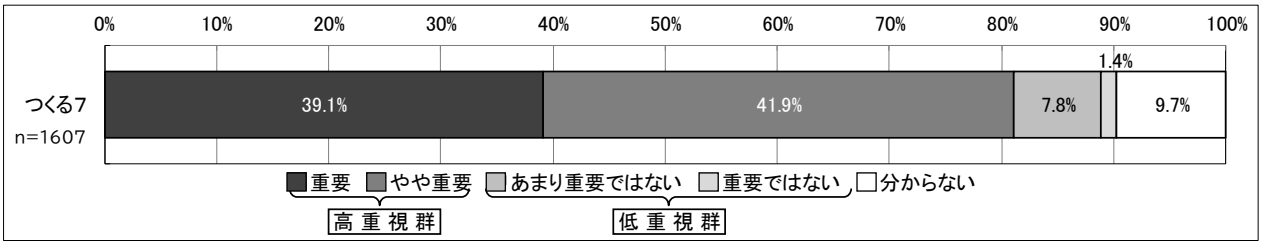


表　１９　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる7	81.0%	81.5%	80.6%	75.2%	80.3%	83.2%	85.0%	78.7%	83.2%	81.4%	81.0%	79.1%	78.0%

図 ２０　満足度割合　（県全体）

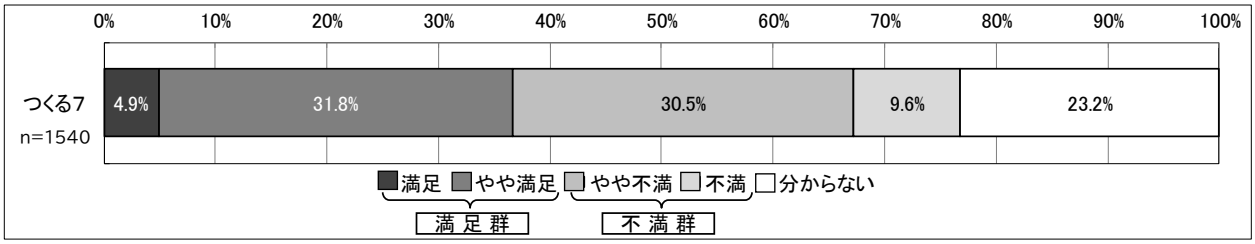


表 ２０　満足群割合　（回答者属性別）

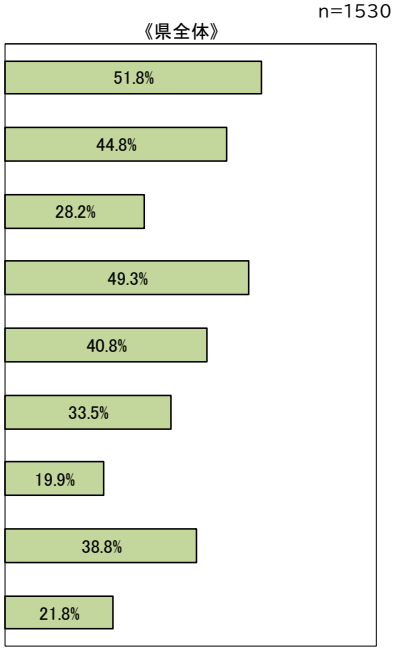
区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる7	36.7%	36.4%	36.6%	39.4%	35.8%	36.2%	36.8%	35.3%	34.8%	35.1%	38.9%	40.5%	35.4%

表 ２１　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる7	40.1%	46.1%	35.4%	31.3%	40.7%	42.7%	40.6%	37.3%	41.4%	46.4%	39.9%	36.2%	39.9%

図 ２１　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取組		テーマ
15　環境負荷の少ない地域経済システム・生活スタイルの確立	1	環境汚染の防止や地球温暖化対策をはじめとする環境問題への理解を深め、環境にやさしい行動をする
	2	エネルギーを無駄なく使い、再生可能エネルギーの利用を増やす
	3	環境問題の解決につながる産業を成長させる
	4	ゴミを減らしながら、できるだけ再利用やリサイクルをする
	5	ゴミの不法投棄等をなくし、正しく処分する
16　豊かな自然と共生・調和する社会の構築	6	地域の生き物がこれからも暮らし続けられる自然環境を守る
	7	森林や水辺、農山漁村について学べる環境をつくる
	8	農村・漁村、森林など地域の豊かな恵みを守りながら、色々な面で積極的に活用する
	9	農村・漁村の暮らしや景観等を活かして都市部から人を呼び込む



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（8）つくる８　世代を超えて安全で信頼のある強くしなやかな県土をつくる

取　組	テーマ
17　大規模化・多様化する災害への対策の強化	1　東日本大震災の経験を活かし、災害発生時の対応力を高める 2　企業や町内会等と連携し、地域における防災体制を強化する 3　避難訓練などを通じて、県民の防災意識を高める 4　防災に関する教育を充実させ、学校の防災体制を強化する 5　施設の整備や情報提供体制の強化などにより、災害への備えを充実させる
18　生活を支える社会資本の整備、維持・管理体制の充実	6　道路、水道等のインフラを計画的に整備するとともに、適切に維持管理する 7　企業や地域住民と協力した公共施設管理の取組を進める

調査結果の概要

【重視度】
○県全体で、「重要」又は「やや重要」と回答している「高重視群割合」は 88.0％となっています。

【満足度】
○県全体で、「満足」又は「やや満足」と回答している「満足群割合」は 47.3％、「やや不満」又は「不満」と回答している「不満群割合」は 32.7％となっています。

【今後優先すべきと思うテーマ】
○「今後優先すべきと思うテーマ」の割合が最も高かったのは、「６　道路、水道等のインフラを計画的に整備するとともに、適切に維持管理する（66.3％）」で、次いで「１　東日本大震災の経験を活かし、災害発生時の対応力を高める（63.9％）」、「５　施設の整備や情報提供体制の強化などにより、災害への備えを充実させる（40.1％）」の順となっています。

図　２２　重視度割合　（県全体）

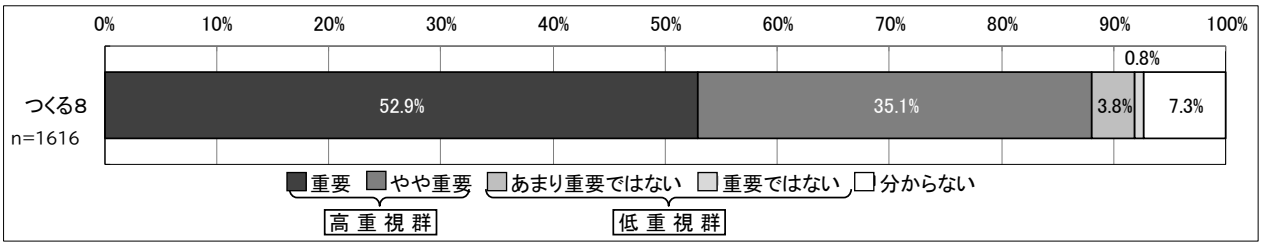


表　２２　高重視群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる8	88.0%	89.1%	87.1%	86.8%	88.4%	88.2%	92.1%	87.1%	90.0%	89.0%	88.3%	83.9%	85.8%

図 ２３　満足度割合　（県全体）

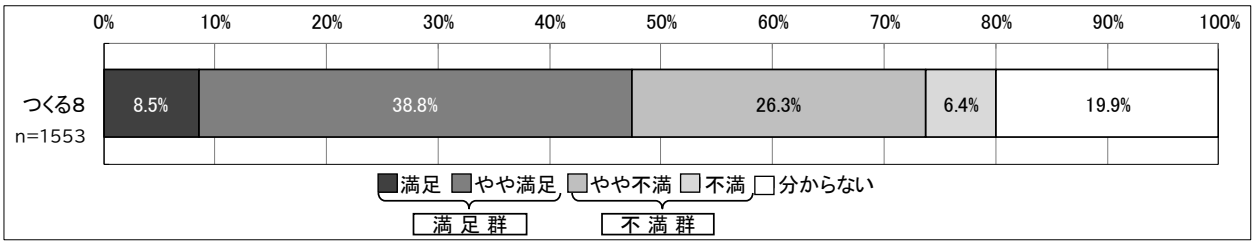


表 ２３　満足群割合　（回答者属性別）

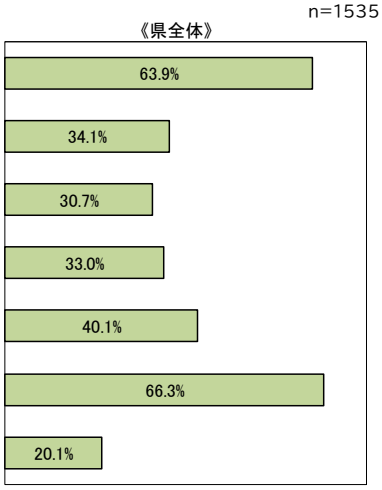
区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる8	47.3%	47.7%	46.8%	51.0%	47.8%	45.8%	47.6%	43.2%	48.5%	43.5%	47.8%	52.6%	49.3%

表 ２４　不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
つくる8	32.7%	35.9%	30.4%	30.3%	32.1%	34.2%	34.5%	32.9%	33.4%	38.9%	33.8%	28.6%	27.1%

図 ２４　今後優先すべきと思うテーマ　（県全体）

取　組		テーマ
17　大規模化・多様化する災害への対策の強化	1	東日本大震災の経験を活かし、災害発生時の対応力を高める
	2	企業や町内会等と連携し、地域における防災体制を強化する
	3	避難訓練などを通じて、県民の防災意識を高める
	4	防災に関する教育を充実させ、学校の防災体制を強化する
	5	施設の整備や情報提供体制の強化などにより、災害への備えを充実させる
18　生活を支える社会資本の整備、維持・管理体制の充実	6	道路、水道等のインフラを計画的に整備するとともに、適切に維持管理する
	7	企業や地域住民と協力した公共施設管理の取組を進める



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

【つくる１～つくる８の重視度・満足度のまとめ】

図 ２５　８つの「つくる」の重視度割合の比較　（県全体）

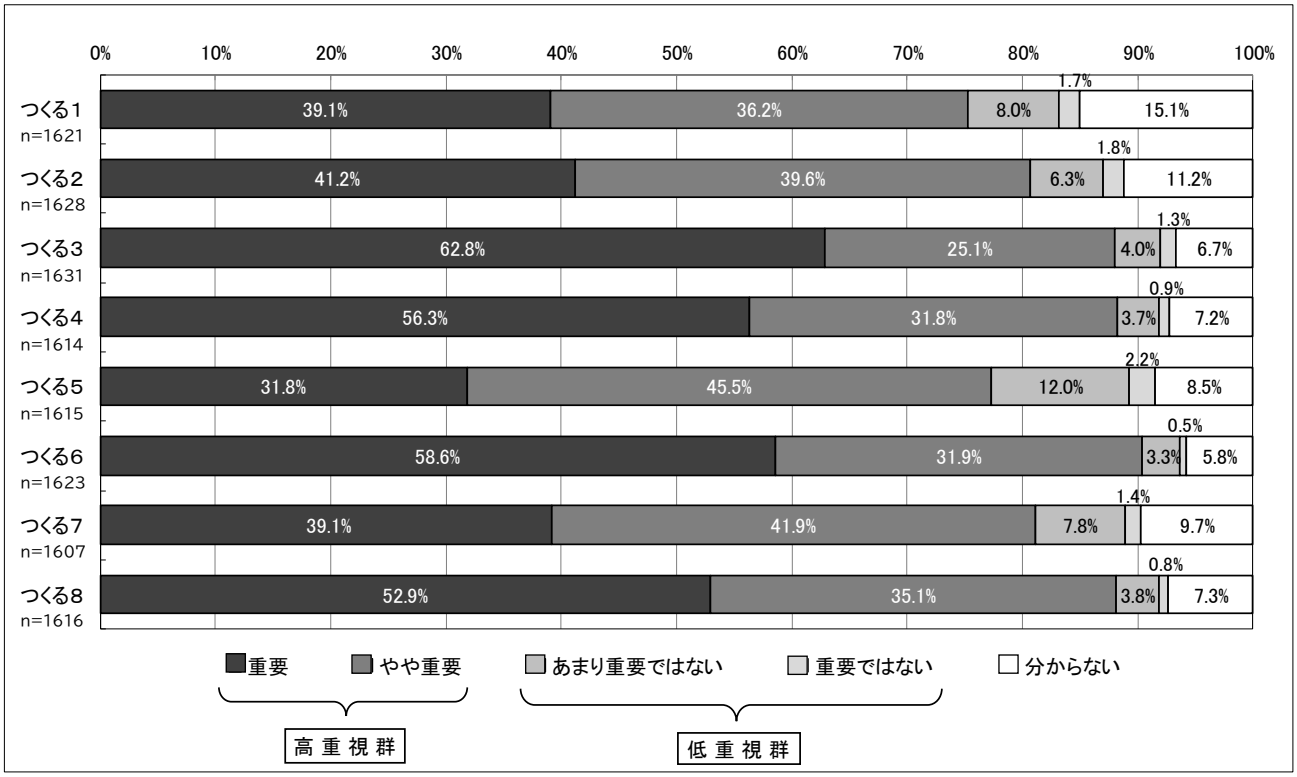


図 ２６　８つの「つくる」の満足度割合の比較　（県全体）

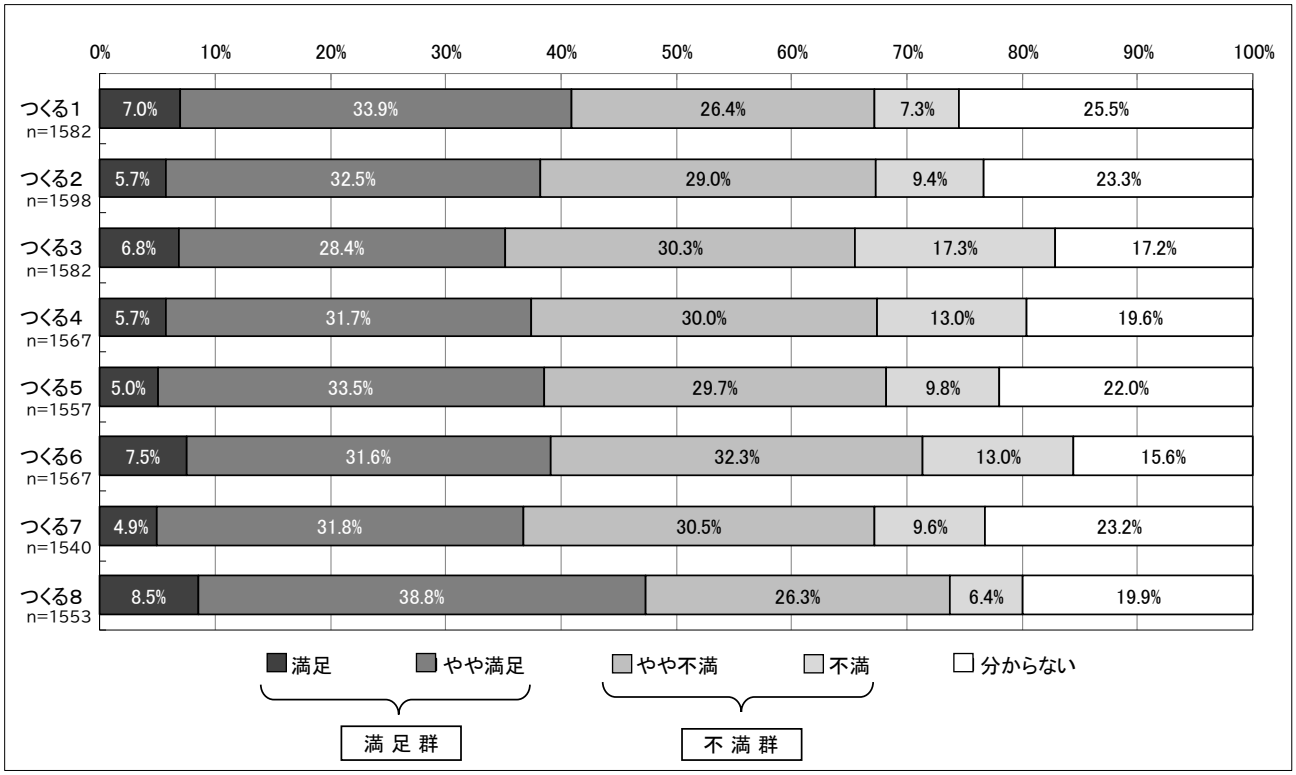


図 ２７　８つの「つくる」の「高重視群」、「満足群」、「不満群」の概要

新・宮城の将来ビジョンに基づく8つの「つくる」	高重視群		満足群		不満群	
	割合	順位	割合	順位	割合	順位
つくる1　全産業で、先進的取組と連携によって新しい価値をつくる	75.3	8	40.9	②	33.7	7
つくる2　産業人材の育成と産業基盤の活用によって持続的な成長の基礎をつくる	80.8	6	38.2	⑤	38.4	6
つくる3　子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる	87.9	④	35.2	8	47.6	①
つくる4　社会を生き、未来を切りひらく力をはぐくむ教育環境をつくる	88.1	②	37.4	6	43.0	③
つくる5　一人ひとりがいきいきと豊かに生活できる環境をつくる	77.3	7	38.5	④	39.5	⑤
つくる6　健康で、安全安心に暮らせる地域をつくる	90.5	①	39.1	③	45.3	②
つくる7　自然と人間が共存共栄する社会をつくる	81.0	⑤	36.7	7	40.1	④
つくる8　世代を超えて安全で信頼のある強くしなやかな県土をつくる	88.0	③	47.3	①	32.7	8

※上位１位から５位までについては、数字を○で囲んでいます。

２　テーマ別項目

テーマ別項目として、「暮らしの満足度について」、「防災意識について」、「宮城県の復旧・復興の進捗状況について」、「デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）について」、「宮城県の地域公共交通について」、「犯罪被害者等支援について」、「アドバンス・ケア・プランニング＜ＡＣＰ＞（人生会議）について」及び「宮城県の治安について」を調査したところ、次のような結果となりました。

（１）暮らしの満足度について

調査結果の概要

【暮らしの満足度について】

○県全体で、「暮らしの満足度」について、満足群が不満群を上回ったのは、「６　文化・芸術・スポーツへの親しみ（満足群 39.8%、不満群 37.3%）」で、その他はいずれも「不満群」が「満足群」を上回っています。

○「満足群」が一番高かったのは、「８　余暇活動や生きがいなど生活の楽しさ（42.4%）」、一方で「不満群」が一番高かったのは「１　仕事の状況や収入（58.0%）」となっています。

【宮城で暮らして良かったと思うか】

○県全体で、「宮城で暮らして良かったと思うか」について、「良かった（34.4%）」又は「どちらかといえば良かった（51.8%）」と回答している割合の合計は、86.2%となっています。

○一方で、「どちらかといえば良くなかった（3.6%）」又は「良くなかった（1.8%）」と回答している割合の合計は、5.4%となっています。

図１　暮らしの満足度（仕事の状況や収入）について　（県全体）

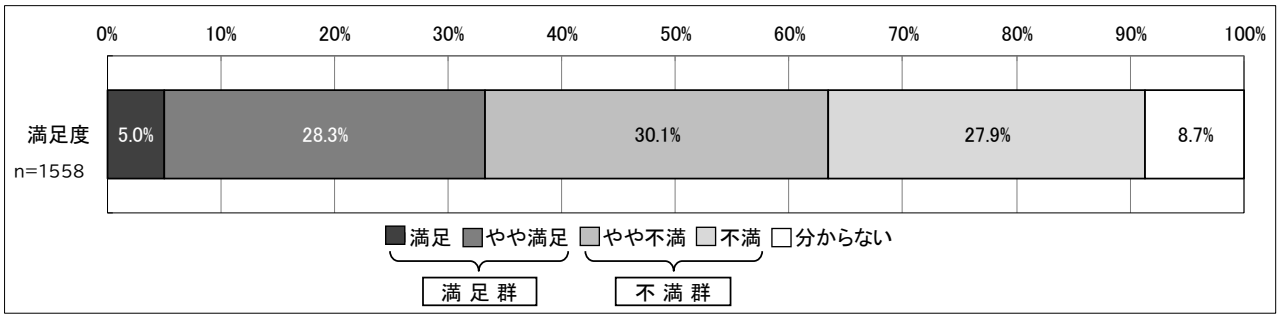


表　１　仕事の状況や収入に対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	33.3%	34.4%	32.6%	33.3%	29.1%	36.6%	32.4%	38.6%	35.9%	32.9%	26.9%	34.4%	33.0%

表　２　仕事の状況や収入に対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	58.0%	58.2%	57.6%	58.9%	66.7%	51.0%	59.7%	51.3%	55.5%	59.7%	64.2%	54.6%	60.0%

図２　暮らしの満足度（ワークライフバランス(仕事と生活)）について　（県全体）

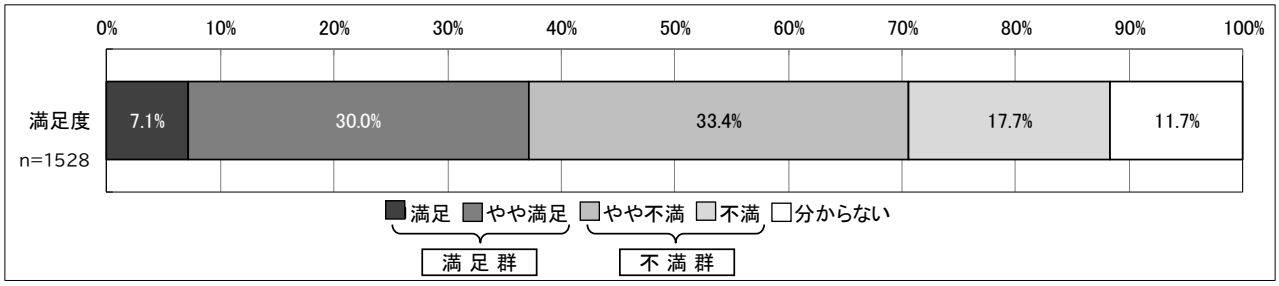


表　３　ワークライフバランス（仕事と生活）に対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	37.1%	39.5%	35.4%	37.1%	34.2%	39.6%	36.0%	38.4%	37.7%	37.9%	34.5%	39.9%	35.2%

表　４　ワークライフバランス（仕事と生活）に対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	51.1%	50.7%	51.4%	55.9%	60.4%	42.2%	51.6%	48.3%	50.2%	52.1%	55.9%	48.5%	52.8%

図３　暮らしの満足度（出産・子育てのしやすさ）について　（県全体）

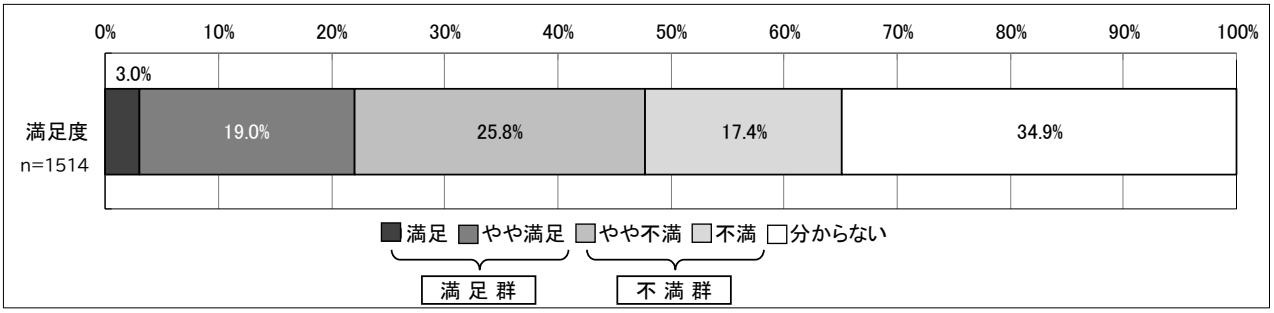


表　５　出産・子育てのしやすさに対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	22.0%	20.7%	22.8%	20.6%	25.4%	19.7%	17.8%	20.6%	26.4%	29.3%	21.6%	25.6%	11.1%

表　６　出産・子育てのしやすさに対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	43.2%	41.5%	44.2%	44.2%	47.1%	39.6%	45.4%	46.3%	41.4%	37.7%	44.7%	38.0%	48.7%

図４　暮らしの満足度（現在の学校教育の内容や環境）について　（県全体）

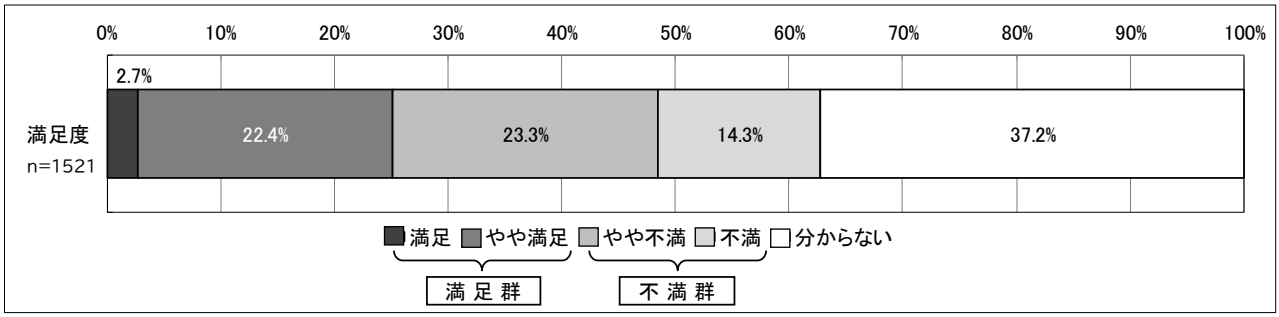


表　７　現在の学校教育の内容や環境に対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	25.1%	23.0%	26.7%	34.6%	26.2%	20.9%	24.4%	24.1%	27.7%	24.8%	26.0%	28.5%	20.5%

表　８　現在の学校教育の内容や環境に対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	37.6%	40.1%	35.6%	30.5%	42.6%	36.2%	36.2%	42.3%	39.8%	39.1%	36.8%	31.1%	37.2%

図５　暮らしの満足度（コミュニティの賑わいなど社会とのつながり）について　（県全体）

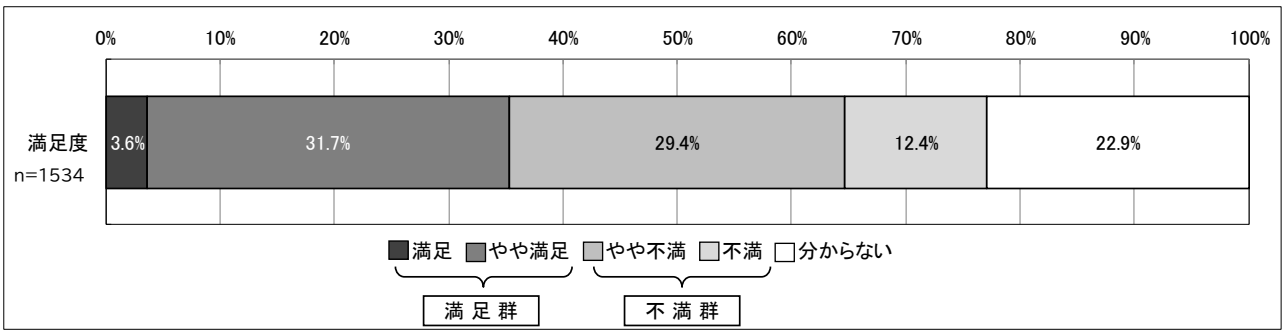


表　９　コミュニティの賑わいなど社会とのつながりに対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	35.3%	32.1%	37.7%	42.2%	34.9%	33.3%	34.4%	30.9%	36.5%	29.2%	39.4%	35.3%	41.3%

表１０　コミュニティの賑わいなど社会とのつながりに対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性　別		年 代 別			圏　域　別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	41.8%	45.6%	38.5%	32.7%	39.5%	46.2%	42.4%	45.4%	40.3%	47.3%	41.3%	38.9%	35.5%

図６　暮らしの満足度（文化・芸術・スポーツへの親しみ）について　（県全体）

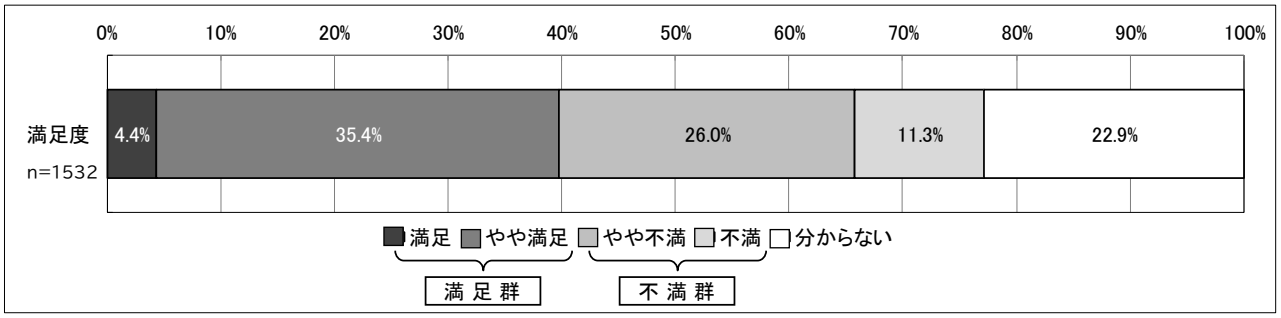


表１１　文化・芸術・スポーツへの親しみに対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	39.8%	37.8%	41.0%	44.8%	39.2%	38.7%	41.4%	44.3%	41.1%	37.6%	36.7%	39.0%	37.1%

表１２　文化・芸術・スポーツへの親しみに対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	37.3%	40.6%	34.8%	32.0%	38.2%	38.1%	39.1%	34.9%	36.0%	40.6%	37.7%	36.4%	36.2%

図７　暮らしの満足度（医療・福祉・介護サービス）について　（県全体）

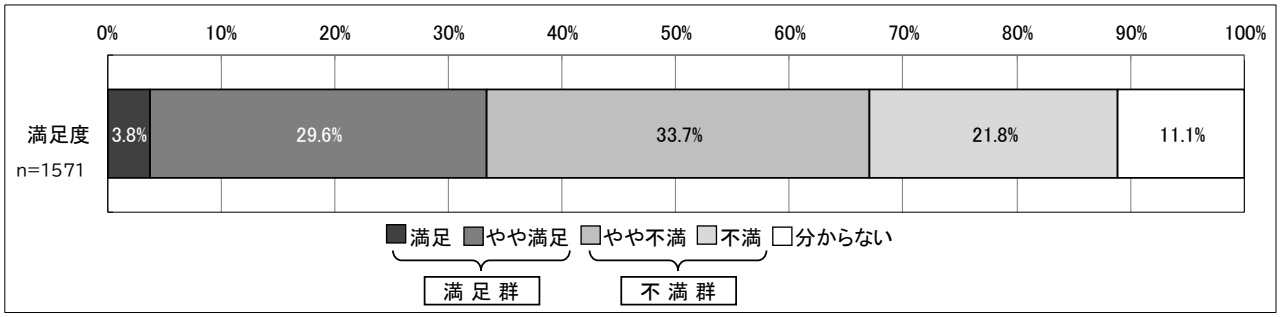


表１３　医療・福祉・介護サービスに対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	33.4%	34.2%	32.8%	34.0%	28.6%	36.7%	32.0%	38.1%	37.1%	30.8%	33.5%	42.3%	20.1%

表１４　医療・福祉・介護サービスに対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	55.5%	55.2%	55.6%	47.5%	60.2%	54.6%	56.3%	51.4%	48.8%	59.2%	57.4%	47.8%	67.6%

図８　暮らしの満足度（余暇活動や生きがいなど生活の楽しさ）について　（県全体）

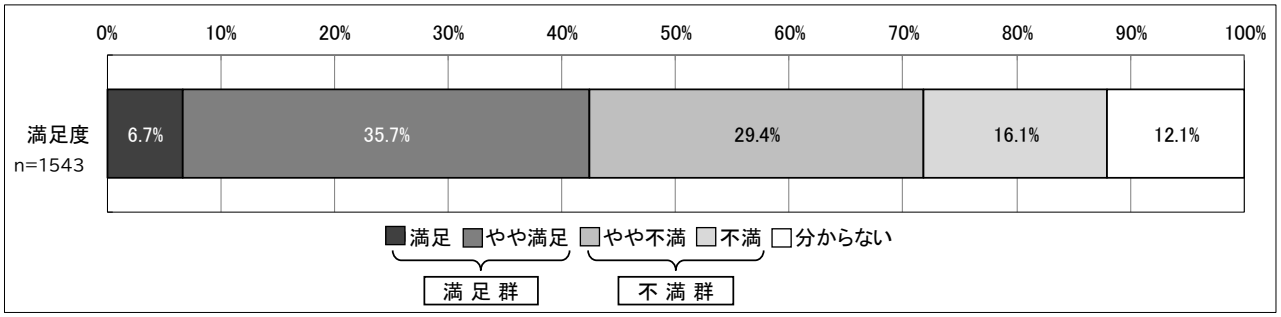


表１５　余暇活動や生きがいなど生活の楽しさに対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	42.4%	39.6%	44.8%	47.4%	34.3%	46.6%	41.1%	40.2%	47.0%	41.1%	38.0%	50.8%	38.7%

表１６　余暇活動や生きがいなど生活の楽しさに対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	45.5%	49.0%	42.5%	38.3%	53.1%	42.0%	48.2%	47.6%	41.4%	49.2%	48.1%	38.1%	44.2%

図９　暮らしの満足度（身の回りの自然環境や公園の充実）について　（県全体）

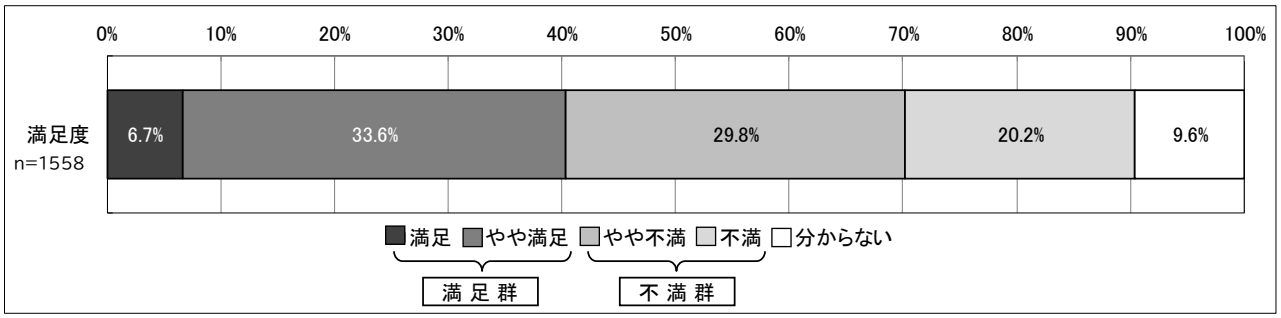


表１７　身の回りの自然環境や公園の充実に対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	40.3%	39.6%	41.0%	39.9%	40.3%	40.5%	47.2%	46.8%	35.7%	28.6%	43.8%	46.5%	36.1%

表１８　身の回りの自然環境や公園の充実に対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性別		年代別			圏域別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	50.0%	50.7%	49.1%	51.4%	51.5%	48.3%	45.9%	43.0%	54.6%	62.4%	50.0%	41.1%	49.2%

図１０　暮らしの満足度（安心安全のための防犯や防災）について　（県全体）

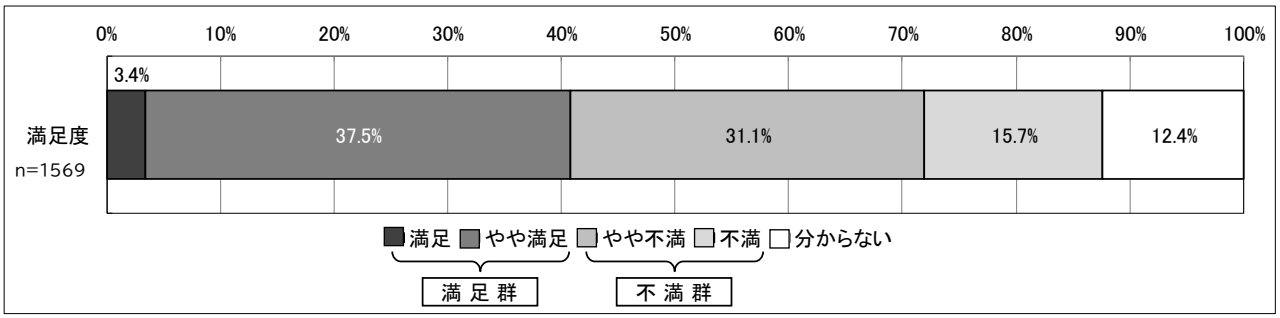


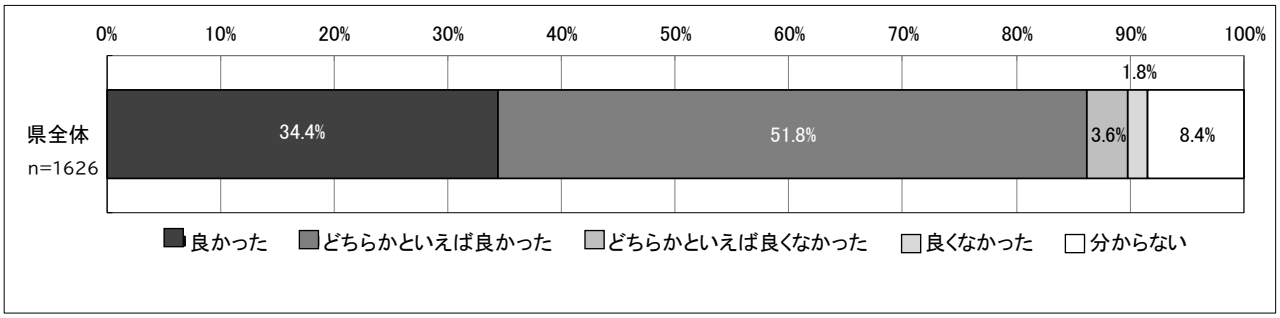
表１９　安心安全のための防犯や防災に対する満足群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
満足群	40.9%	38.1%	43.2%	49.8%	37.3%	40.8%	39.4%	37.0%	41.2%	32.7%	41.7%	50.7%	45.3%

表２０　安心安全のための防犯や防災に対する不満群割合　（回答者属性別）

区分	県全体	性 別		年 代 別			圏 域 別						
		男性	女性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	仙南	仙台	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼・本吉
不満群	46.8%	50.9%	43.0%	35.4%	50.7%	47.1%	48.9%	50.5%	44.1%	57.9%	47.9%	37.1%	37.9%

図１１　「宮城で暮らして良かったと思うか」について　（県全体）



（２）防災意識について

調査結果の概要

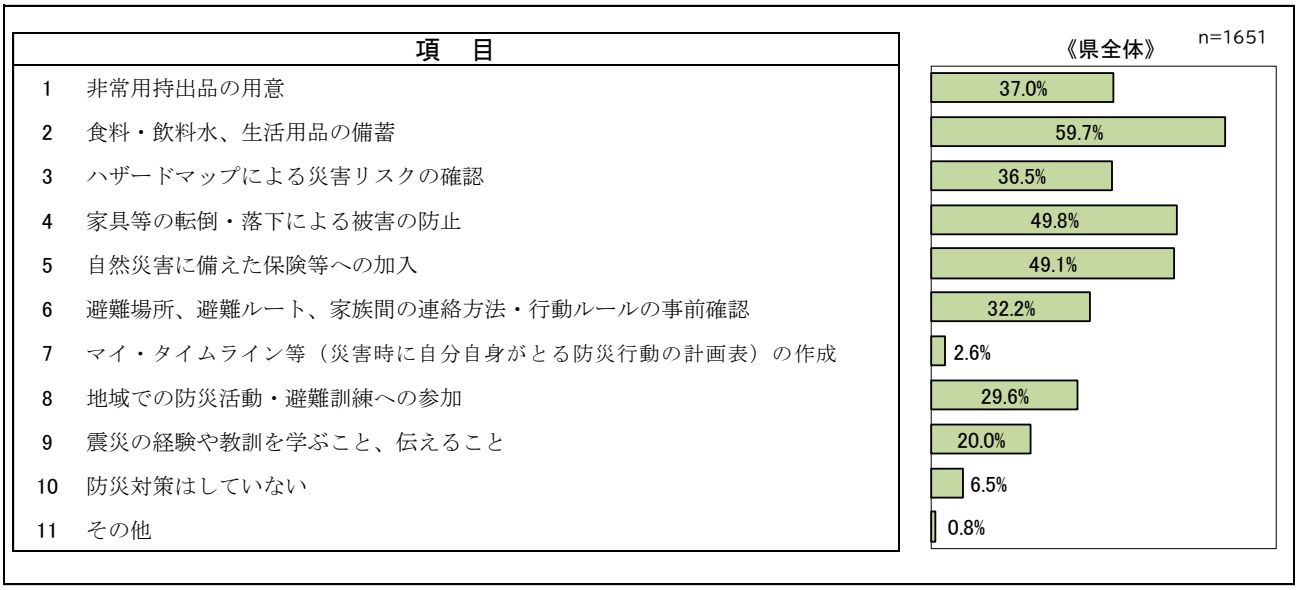
【地震・津波・風水害等の自然災害に備え、日頃行っている対策】

○県全体で、「地震・津波・風水害等の自然災害に備え、日頃行っている対策」について、「２　食料・飲料水、生活用品の備蓄（59.7%）」が最も多く、次いで「４　家具等の転倒・落下による被害の防止（49.8%）」、「５　自然災害に備えた保険等への加入（49.1%）」の順となっています。

【防災対策をしていない主な理由】

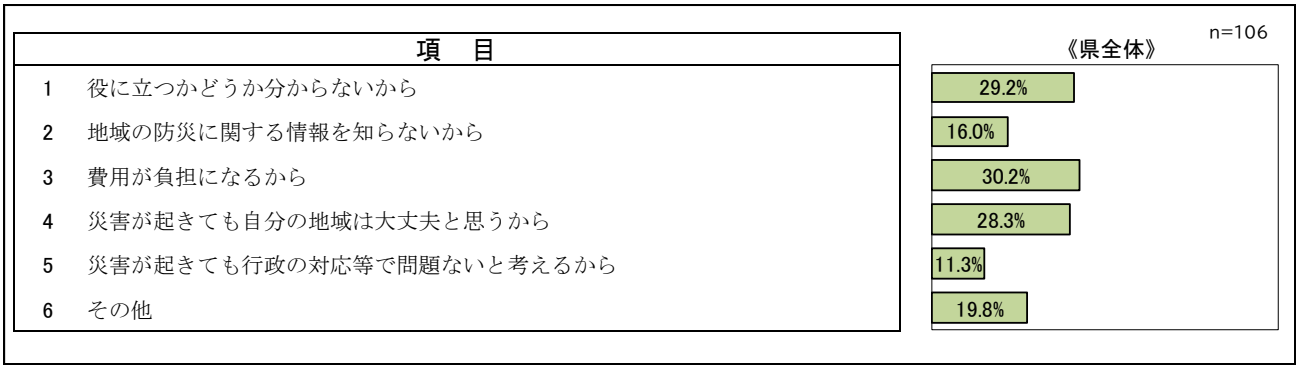
○県全体で、「日頃から防災対策はしていない」の回答のうち、「防災対策をしていない主な理由」について、回答が最も多かったのは、「３　費用が負担になるから（30.2%）」で、次いで「１　役に立つかどうか分からないから（29.2%）」、「４　災害が起きても自分の地域は大丈夫と思うから（28.3%）」の順となっています。

図１２　地震・津波・風水害等の自然災害に備え、日頃行っている対策　（県全体）



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

図１３　防災対策をしていない主な理由　（県全体）



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（３）宮城県の復旧・復興の進捗状況について

調査結果の概要

【東日本大震災の風化の実感】

○県全体で、「東日本大震災の風化の実感」について、「常に実感する（15.3%）」又は「たまに実感する（56.5%）」と回答している割合の合計は、71.8%となっています。

○一方で、「あまり実感したことはない（19.8%）」又は「実感したことはない（5.4%）」と回答している割合の合計は、25.2%となっています。

【東日本大震災の風化を実感すると感じる時】

○県全体で、「震災の風化を（常に／たまに）実感する」の回答のうち、「東日本大震災の風化を実感すると感じる時」について、回答が最も多かったのは、「１　自分自身の意識（55.0%）」で、次いで「６　日々の生活の状況（45.5%）」、「５　新聞やテレビなどでの取り上げ方（37.0%）」の順となっています。

【宮城県の復旧・復興の取組について、もっと力をいれてほしい取組】

○県全体で、「復旧・復興の取組について、もっと力をいれてほしい取組」について、「７　雇用の維持・確保（54.7%）」が最も多く、次いで「１４　風評対策（安全情報の発信）（51.8%）」、「１７　情報発信（45.9%）」の順となっています。

図　１４　東日本大震災の風化の実感　（県全体）

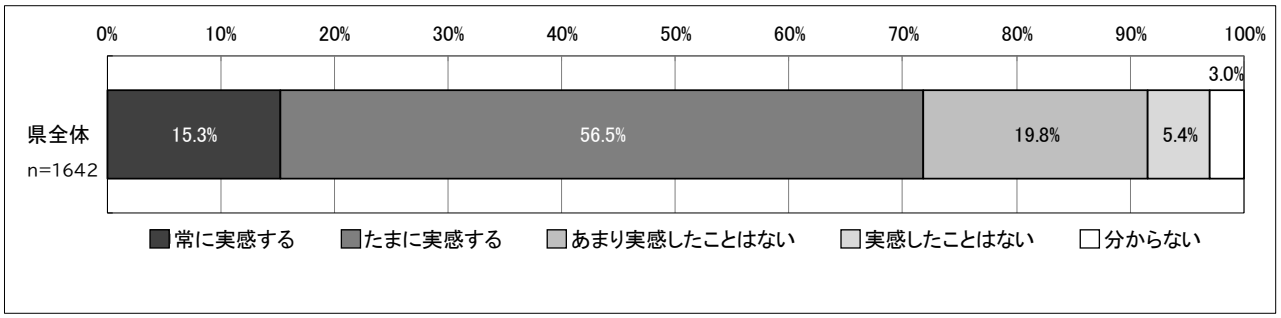
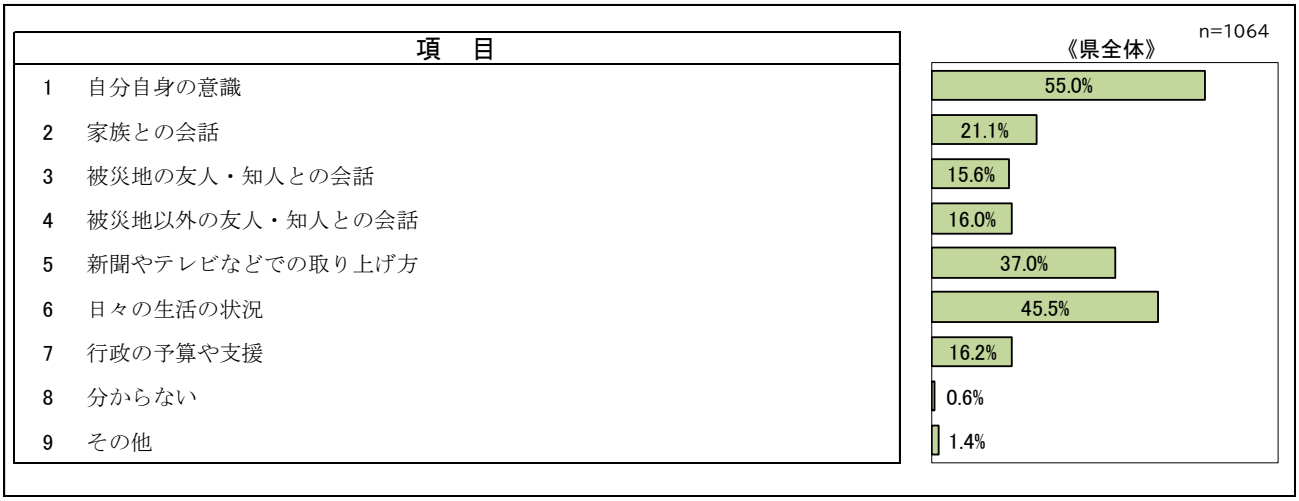


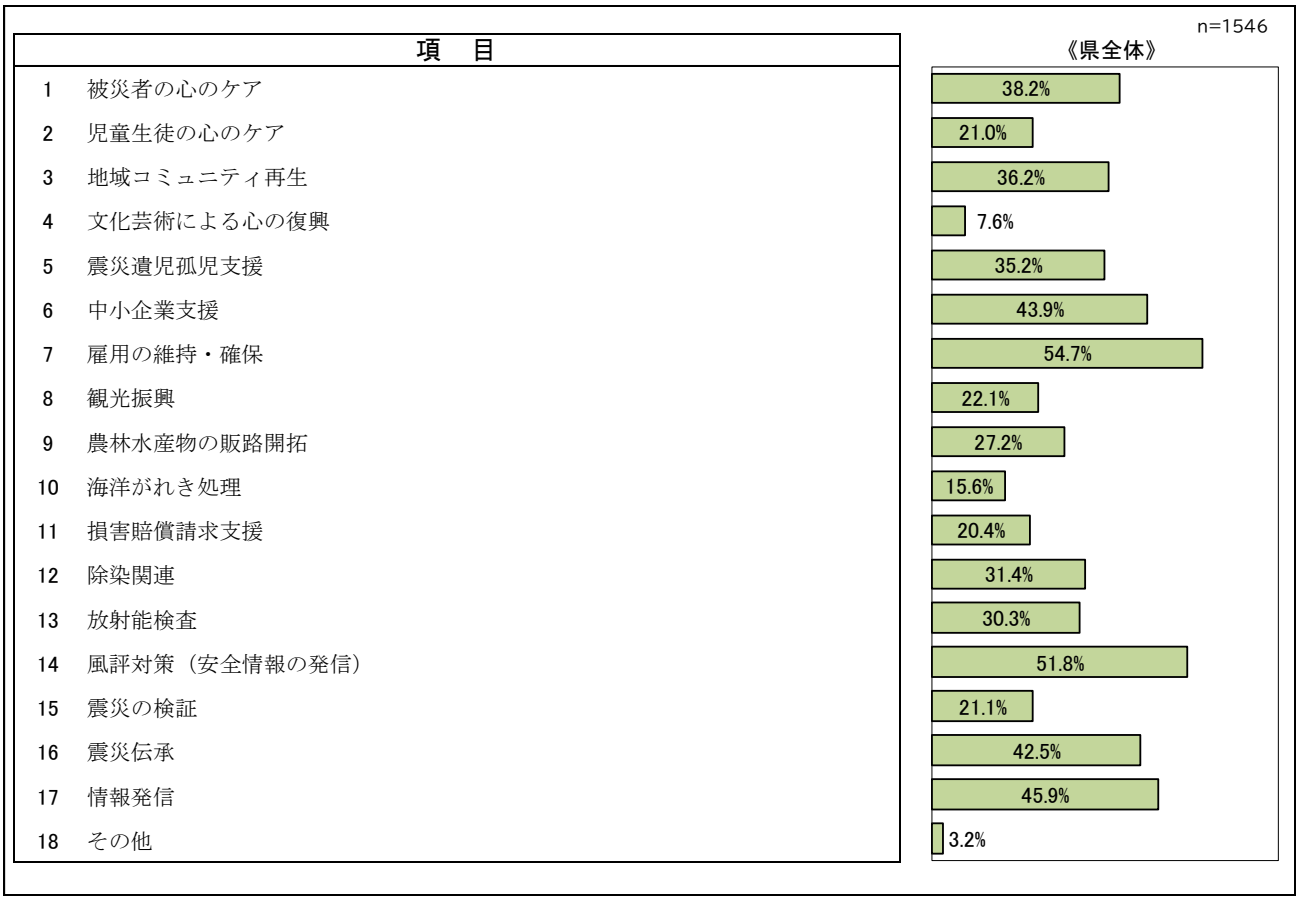
図１５　東日本大震災の風化を実感すると感じる時　（県全体）



※1「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

※2 本問は３つまで選択する設問となっていますが、３つ以上回答する方が多かったため、あてはまる番号すべてを選択する設問として集計しています。

図１６　宮城県の復旧・復興の取組について、もっと力をいれてほしい取組　（県全体）



※「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（4）デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）について

調査結果の概要

【ＤＸの実感】

○県全体で、「ＤＸの実感」について、すべての項目で実感群が非実感群を上回っています。

○「実感群」が一番高かったのは、「生活（81.7%）」、一方で「非実感群」が一番高かったのは、「仕事・地域活動（23.6%）」となっています。

【ＤＸによる利便性の向上】

○県全体で、「ＤＸによる利便性の向上」について、すべての項目で実感群が非実感群を上回っています。

○「実感群」が一番高かったのは、「生活（53.3%）」、一方で「非実感群」が一番高かったのは、「行政サービス（32.4%）」となっています。

【今後宮城県がＤＸを推進するべき分野で特に重要なもの】

○県全体で、「今後宮城県がＤＸを推進するべき分野で特に重要なもの」について、「５　医療・福祉の充実（56.6%）」が最も多く、次いで「６　安全安心の確保（防犯・防災）（37.9%）」、「１　子育て支援（27.4%）」の順となっています。

図１７　ＤＸの実感（生活）　（県全体）

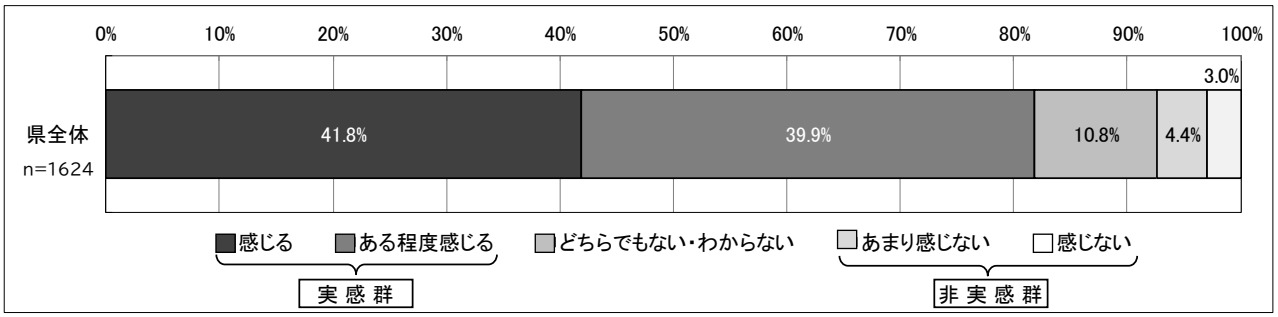


図１８　ＤＸの実感（仕事・地域活動）　（県全体）

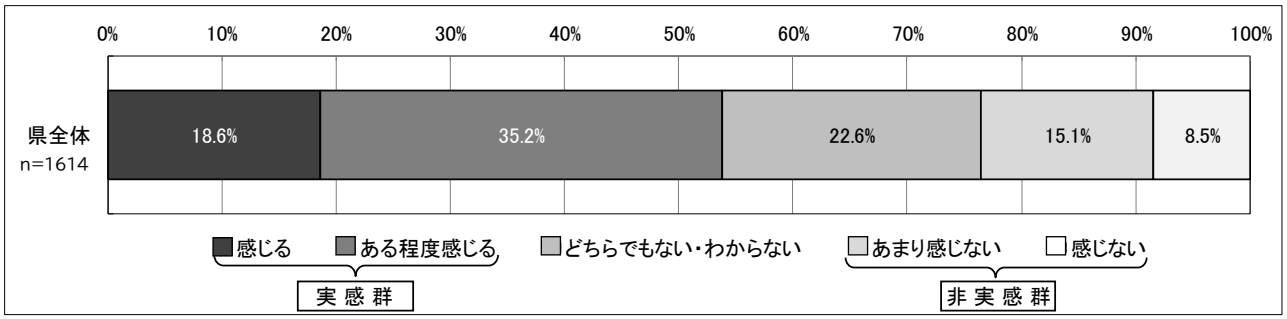


図１９　ＤＸの実感（行政サービス）　（県全体）

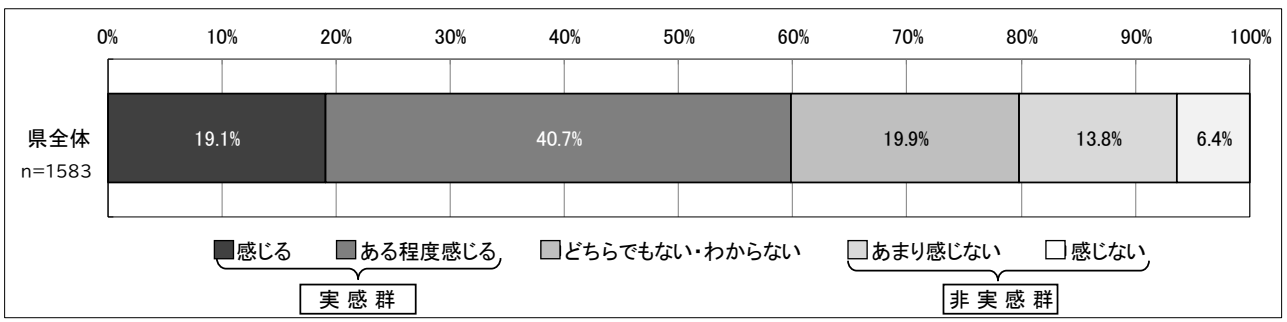


図２０　ＤＸによる利便性の向上（生活）　（県全体）

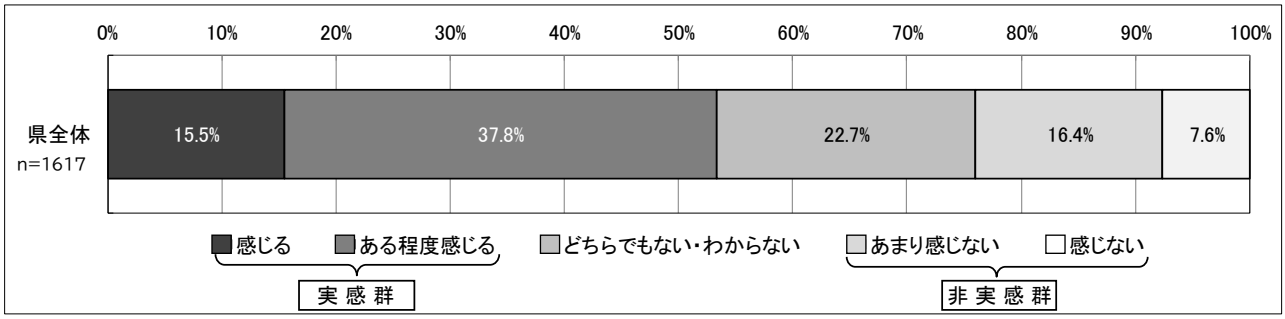


図２１　ＤＸによる利便性の向上（仕事・地域活動）　（県全体）

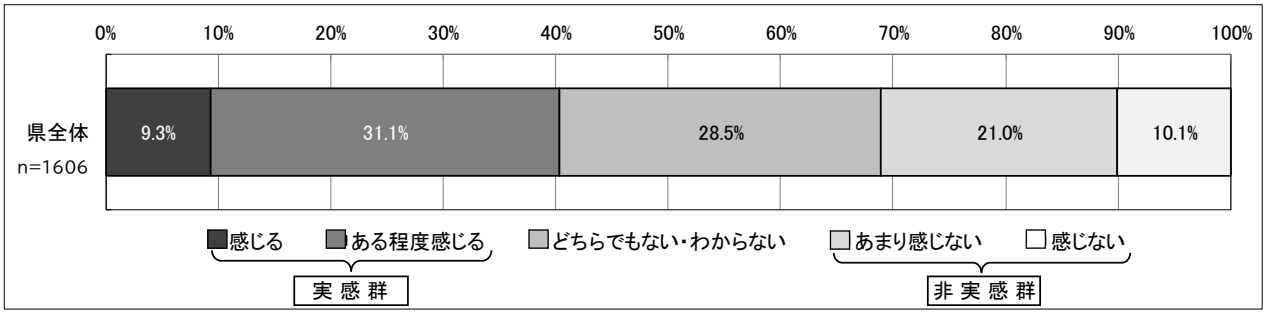


図２２　ＤＸによる利便性の向上（行政サービス）　（県全体）

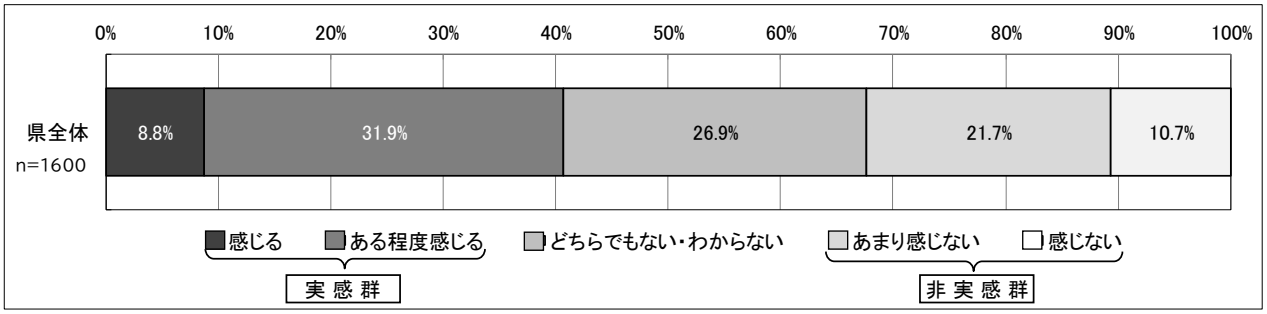


図２３　今後宮城県がＤＸを推進するべき分野で特に重要なもの　（県全体）

	項　目	《県全体》 n=1585
1	子育て支援	27.4%
2	教育の充実	23.5%
3	社会参画の促進	4.9%
4	文化振興・生涯学習・スポーツ振興	6.8%
5	医療・福祉の充実	56.6%
6	安全安心の確保（防犯・防災）	37.9%
7	中小企業支援	13.6%
8	雇用の確保・産業人材の育成	20.9%
9	農林水産業の振興	9.8%
10	観光・商業の振興	9.7%
11	移住定住・地域振興	6.7%
12	環境保全・エネルギー政策	6.2%
13	インフラ（道路・河川・公共施設等）管理	17.7%
14	行政サービス（行政手続のオンライン化、マイナンバーカードの活用等）	25.2%
15	その他	1.8%

※1「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。
※2 本問は３つまで選択する設問となっていますが、３つ以上回答する方が多かったため、あてはまる番号すべてを選択する設問として集計しています。

（５）宮城県の地域公共交通について

調査結果の概要

【地域の公共交通の利用頻度】

○県全体で、「地域の公共交通の利用頻度」について、「ほとんど利用しない（71.3%）」が最も多く、次いで「１年に数日（16.4%）」、「１か月に数日（8.0%）」の順となっています。

【地域の公共交通の主な利用目的】

○県全体で、「地域の公共交通の主な利用目的」について、「買い物（39.1%）」が最も多く、次いで「通院（13.7%）」、「通勤（11.9%）」の順となっています。

○一方で、「その他」と回答している割合は 33.1%と２番目に回答が多くなっており、「飲酒時や行楽の際に利用する」といった主旨の意見がみられます。

【利用している地域の公共交通の種類】

○県全体で、「利用している地域の公共交通の種類」について、「１　鉄道・地下鉄・ＢＲＴ（58.4%）」が最も多く、次いで「２　高速バス（24.7%）」、「３　路線バス（19.8%）」の順となっています。

【地域の公共交通を利用しない理由】

○県全体で、地域の公共交通を「ほとんど利用しない」の回答のうち、「地域の公共交通を利用しない理由」について、回答が最も多かったのは、「最寄りの駅やバス停が遠いため（25.4%）」で、次いで「希望時間帯に運行していないため（17.8%）」、「移動時間を短縮するため（11.4%）」の順となっています。

○一方で、「その他」と回答している割合は 40.5%と最も回答が多くなっており、「自家用車があるから」といった主旨の意見がみられます。

【地域の公共交通を利用しない場合の移動手段】

○県全体で、「地域の公共交通をほとんど利用しない」の回答のうち、「地域の公共交通を利用しない場合の移動手段」について、回答が最も多かったのは、「自家用車（バイク含む）（89.7%）」で、次いで「家族等による送迎（6.1%）」、「自転車（2.0%）」の順となっています。

【地域の公共交通の満足度】

○県全体で、「地域の公共交通の満足度」について、「満足している（7.3%）」又は「どちらかといえば満足している（28.8%）」と回答している割合の合計は、36.1%となっています。

○一方で、「どちらかといえば不満である（35.6%）」又は「不満である（28.3%）」と回答している割合の合計は、63.9%となっています。

【地域の公共交通に対して感じていること】

○県全体で、「地域の公共交通に対して感じていること」について、「１　運行本数が少ない（57.8%）」が最も多く、次いで「２　希望する時間に利用できない（44.1%）」、「５　車と比較して時間がかかる（36.9%）」の順となっています。

図２４　地域の公共交通の利用頻度　（県全体）

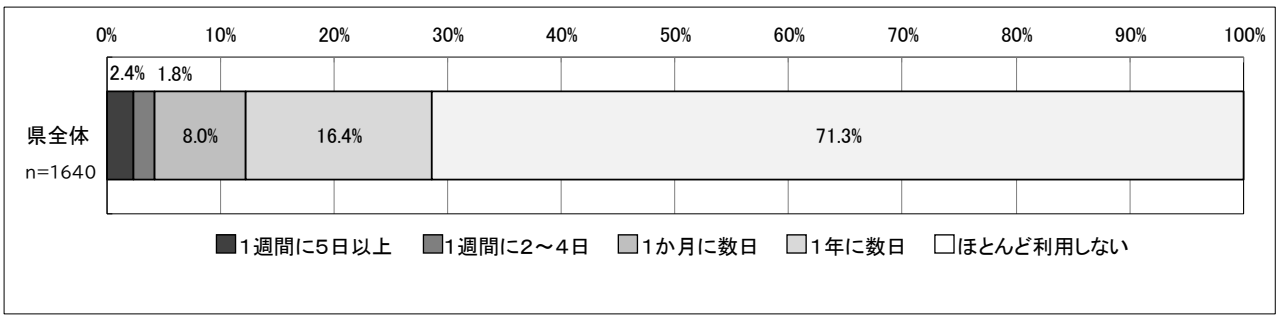


図２５　地域の公共交通の主な利用目的　（県全体）

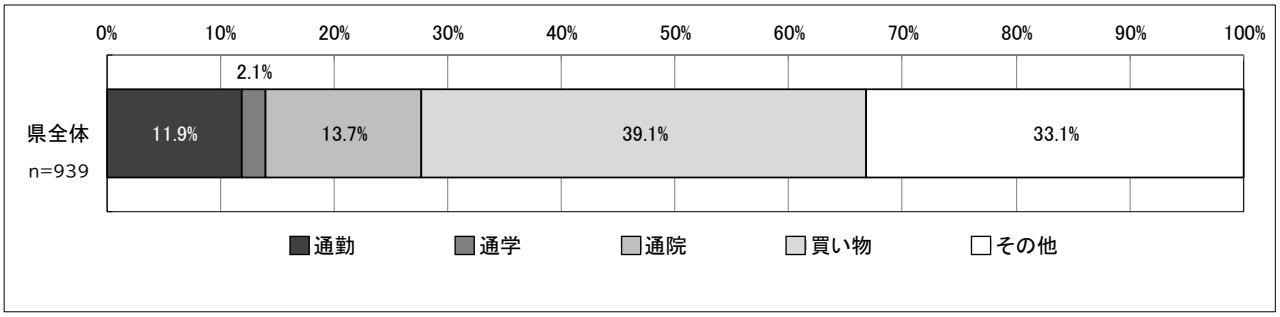
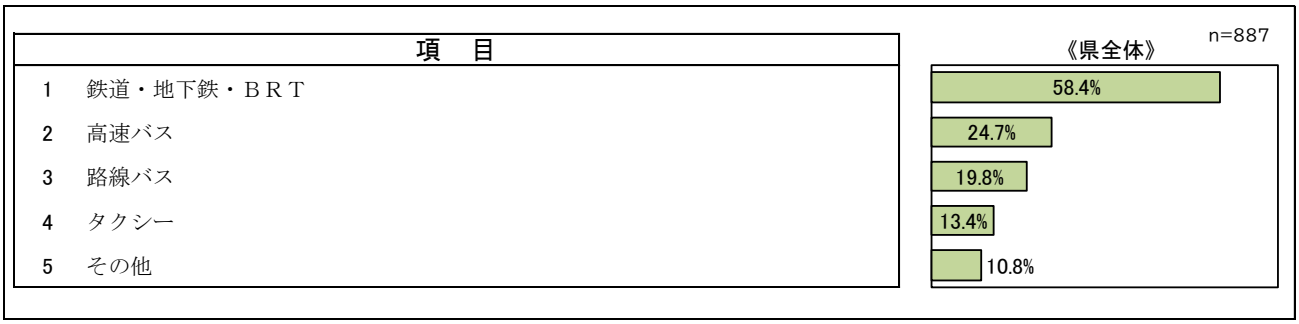


図２６　利用している地域の公共交通の種類　（県全体）



※「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

図２７　地域の公共交通を利用しない理由　（県全体）

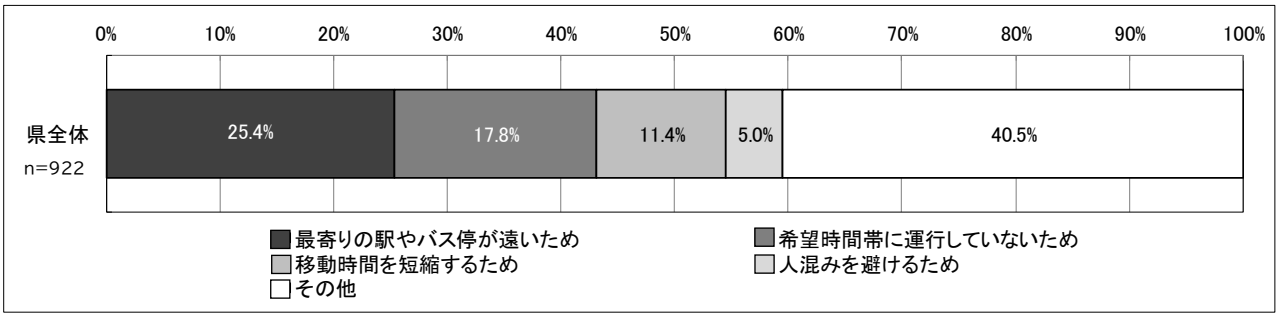


図２８　地域の公共交通を利用しない場合の移動手段　（県全体）

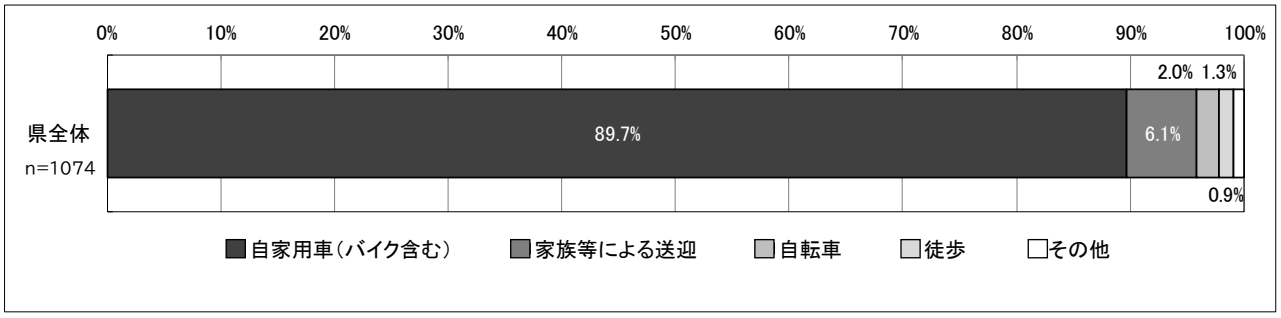


図２９　地域の公共交通の満足度　（県全体）

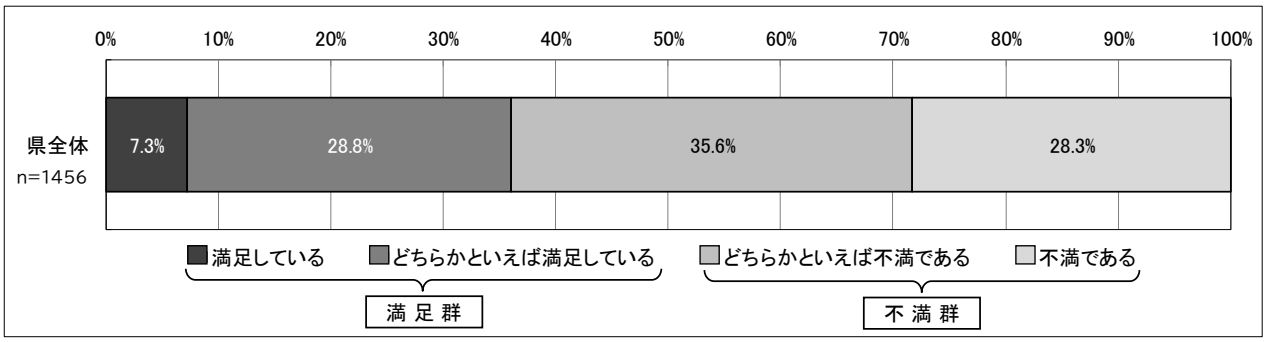
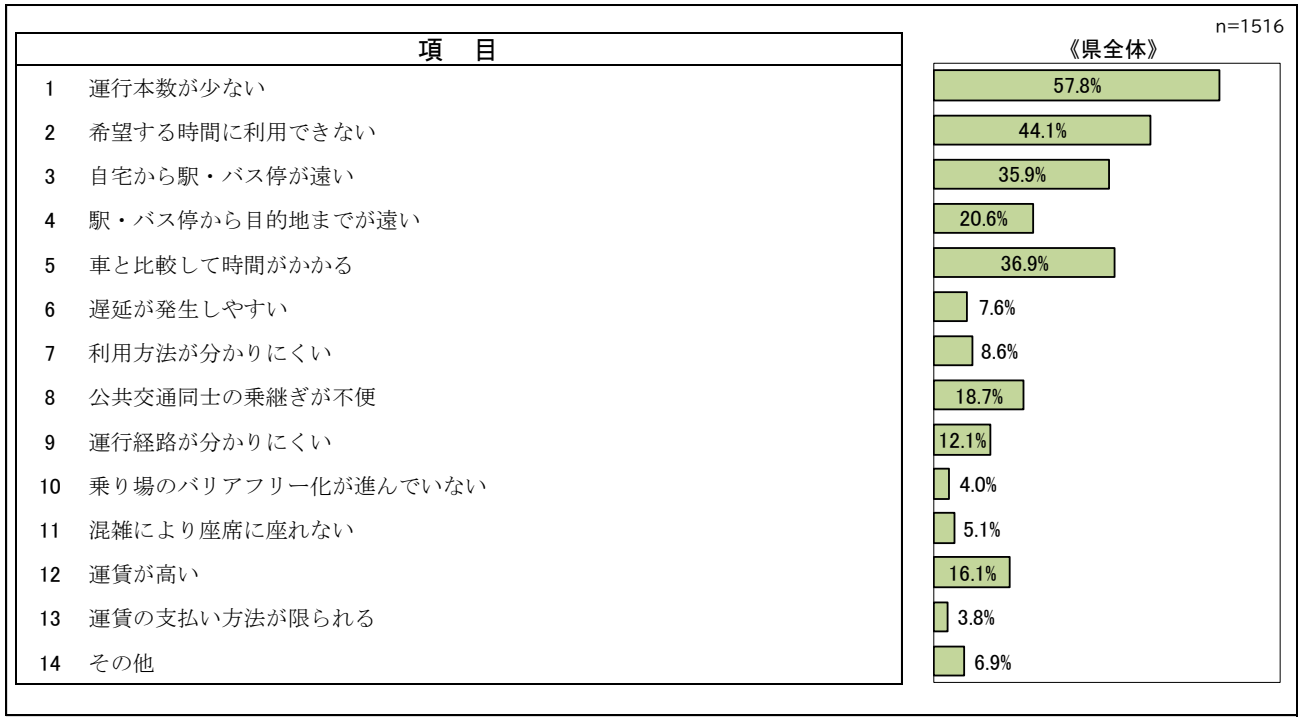


図３０　地域の公共交通に対して感じていること　（県全体）



※「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（６）犯罪被害者等支援について

調査結果の概要

【犯罪被害に伴う二次的被害のうち特に大きな問題だと思うもの】

○県全体で、「犯罪被害に伴う二次的被害のうち特に大きな問題だと思うもの」について、「１　事件に遭ったことによる精神的ショックや身体の不調（69.0%）」が最も多く、次いで「５　マスコミの取材や報道によるプライバシーの侵害（43.7%）」、「６　周囲の人々によるうわさ話や興味本位の質問（37.7%）」の順となっています。

【犯罪被害者等の支援として特に必要性が高いと思うもの】

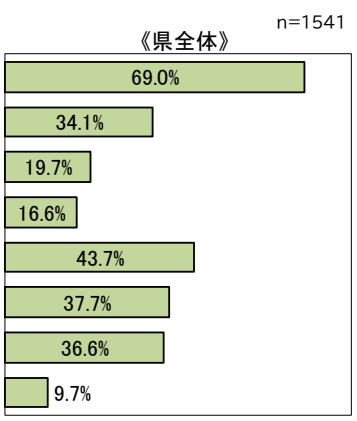
○県全体で、「犯罪被害者等の支援として特に必要性が高いと思うもの」について、「１　相談や、支援施策に関する情報提供を行う総合的窓口（49.1%）」が最も多く、次いで「８　失職や転職を余儀なくされた場合の就労の支援（31.0%）」、「２　弁護士などによる法律相談（30.3%）」の順となっています。

【犯罪被害者等支援の気運を高めるために県が進めるべき取組】

○県全体で、「犯罪被害者等支援の気運を高めるために県が進めるべき取組」について、「１　学校における児童生徒への教育（60.9%）」が最も多く、次いで「６　テレビ、ラジオなど画像・音声媒体を活用した広報（46.7%）」、「８　ホームページ、ＳＮＳ、動画投稿サイトなどによるインターネット媒体を活用した広報（37.7%）」の順となっています。

図３１　犯罪被害に伴う二次的被害のうち特に大きな問題だと思うもの　（県全体）

	項　目
1	事件に遭ったことによる精神的ショックや身体の不調
2	医療費の負担や失職・転職、転居などによる経済的困窮
3	失職・転職などによる就労上の負担
4	捜査や裁判などの刑事手続に伴う負担
5	マスコミの取材や報道によるプライバシーの侵害
6	周囲の人々によるうわさ話や興味本位の質問
7	第三者によるインターネットへの書き込み
8	被害者等を支援する人や機関による不適切な対応

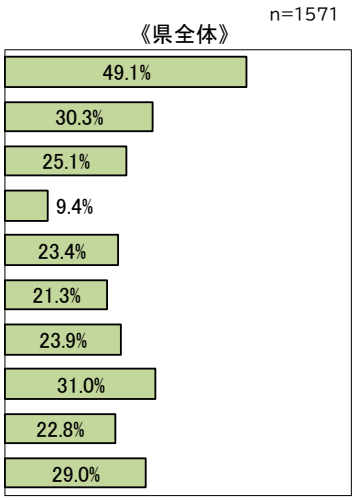


※1「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

※2 本問は３つまで選択する設問となっていますが、３つ以上回答する方が多かったため、あてはまる番号すべてを選択する設問として集計しています。

図３２　犯罪被害者等の支援として特に必要性が高いと思うもの　（県全体）

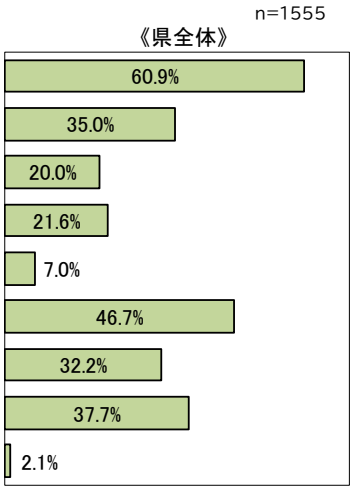
	項　目
1	相談や、支援施策に関する情報提供を行う総合的窓口
2	弁護士などによる法律相談
3	被害直後における安全確保のための一時避難場所
4	警察署や医療機関等への付き添い
5	医療の提供やカウンセリング
6	家事、育児、介護など生活面の支援
7	転居せざるを得なくなった場合の住宅の支援
8	失職や転職を余儀なくされた場合の就労の支援
9	損害賠償請求の支援
10	見舞金や給付金、生活資金の援助・貸付などの経済的支援



※1「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。
※2 本問は３つまで選択する設問となっていますが、３つ以上回答する方が多かったため、あてはまる番号すべてを選択する設問として集計しています。

図３３　犯罪被害者等支援の気運を高めるために県が進めるべき取組　（県全体）

	項　目
1	学校における児童生徒への教育
2	県民を対象とした講演、研修、シンポジウムの開催
3	事業者を対象とした講演、研修、シンポジウムの開催
4	駅、公共施設、商業施設などでのイベント開催
5	関連キャラクターを活用したＰＲ
6	テレビ、ラジオなど画像・音声媒体を活用した広報
7	新聞・雑誌、ポスター、リーフレットなど紙媒体を活用した広報
8	ホームページ、ＳＮＳ、動画投稿サイトなどによるインターネット媒体を活用した広報
9	その他



※「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（7）アドバンス・ケア・プランニング＜ＡＣＰ＞（人生会議）について

調査結果の概要

【アドバンス・ケア・プランニングの認知度】

○県全体で、「アドバンス・ケア・プランニングの認知度」について、「よく知っている（他人に詳しく説明できる）（0.8%）」、「ある程度知っている（3.1%）」又は「言葉を聞いたことがある程度（12.8%）」と回答している割合の合計は、16.7%となっています。

○一方で、「まったく知らない」と回答している割合は、83.3%となっています。

【アドバンス・ケア・プランニングを知った方法】

○県全体で、「アドバンス・ケア・プランニングを知っている（聞いたことがある）」の回答のうち、「アドバンス・ケア・プランニングを知った方法」について、回答が最も多かったのは、「４　テレビ（26.9%）」で、次いで「６　インターネット・ＳＮＳ（20.0%）」、「３　新聞記事（18.5%）」の順となっています。

【自身や家族などの人生の最終段階における医療・ケアの話し合いの有無】

○県全体で、「自身や家族などの人生の最終段階における医療・ケアの話し合いの有無」について、「詳しく話し合ったことがある（3.4%）」、「一応話し合ったことがある（24.0%）」又は「現在のところ話し合う予定はないが、いずれ話し合いたい（30.0%）」と回答している割合の合計は、57.4%となっています。

○一方で、「まったく話し合ったことがない」と回答している割合は、42.6%となっています。

【人生の最終段階における医療・ケアについてまったく話し合ったことがない理由】

○県全体で、「人生の最終段階における医療・ケアについてまったく話し合ったことがない」の回答のうち、「まったく話し合ったことがない理由」について、回答が最も多かったのは、「話し合うきっかけがなかったから（50.5%）」で、次いで「知識がなく、何を話し合ってよいかわからないから（26.6%）」、「話し合う必要性を感じていないから（16.3%）」の順となっています。

【アドバンス・ケア・プランニングを行うために必要だと思うもの】

○県全体で、「アドバンス・ケア・プランニングを行うために必要だと思うもの」について、「１　受けられる医療・ケアに関する情報（76.7%）」が最も多く、次いで「３　医療関係者からのアドバイス（49.9%）」、「２家族など周りの方の理解（46.9%）」の順となっています。

図３４　アドバンス・ケア・プランニングの認知度　（県全体）

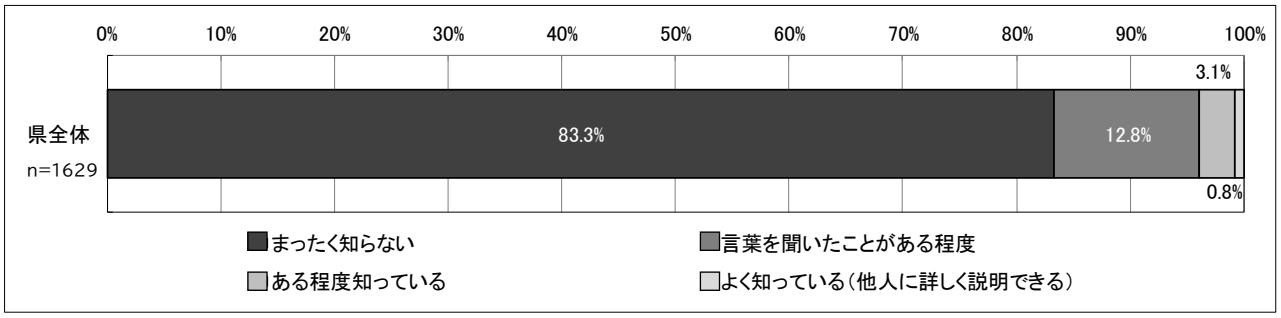
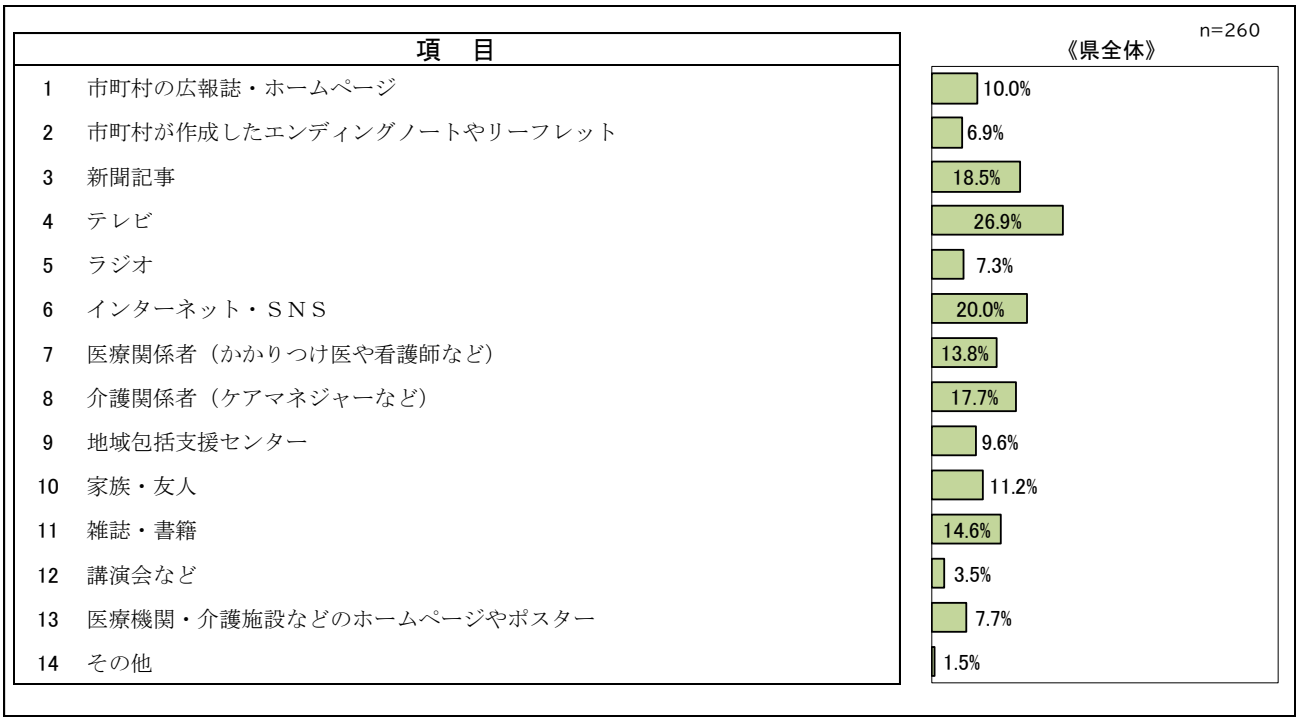


図３５　アドバンス・ケア・プランニングを知った方法　（県全体）



※「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

図３６　自身や家族などの人生の最終段階における医療・ケアの話し合いの有無　（県全体）

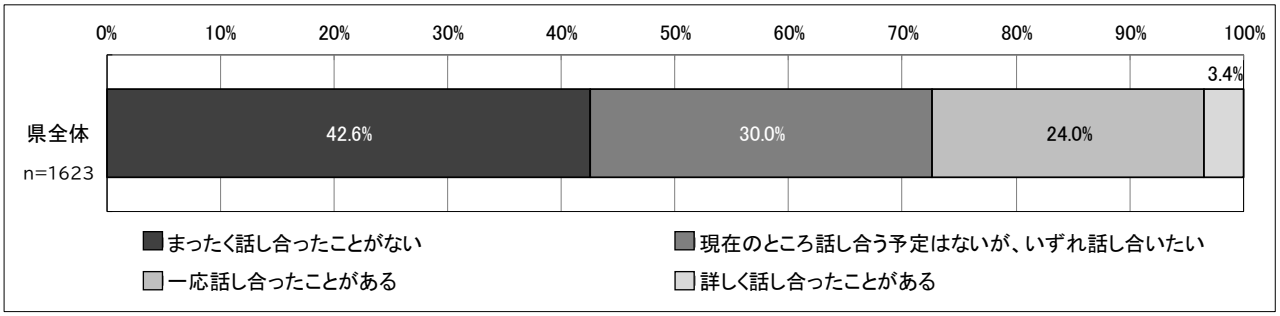


図３７　人生の最終段階における医療・ケアについてまったく話し合ったことがない理由　（県全体）

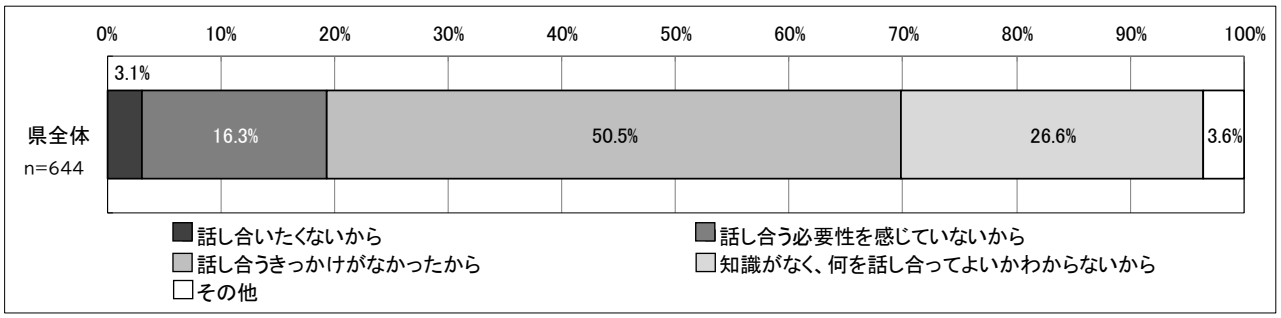
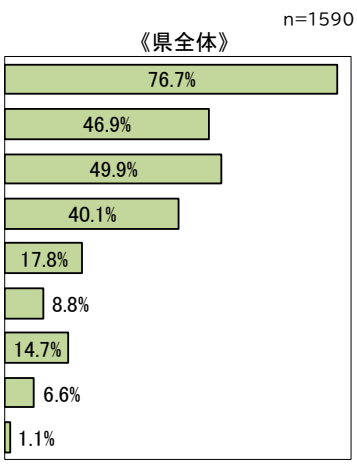


図３８　アドバンス・ケア・プランニングを行うために必要だと思うもの　（県全体）

	項　目
1	受けられる医療・ケアに関する情報
2	家族など周りの方の理解
3	医療関係者からのアドバイス
4	介護関係者からのアドバイス
5	医療関係者・介護関係者ではない方による体験談
6	講演会など
7	話し合った内容を記録できる書式
8	特にない
9	その他



※「割合（%)」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

（８）宮城県の治安について

調査結果の概要

【宮城県の治安をどのように感じているか】

○県全体で、「宮城県の治安をどのように感じているか」について、「良い（11.7%）」又は「どちらかといえば良い（63.7%）」と回答している割合の合計は、75.4%となっています。

○一方で、「どちらかといえば悪い（11.5%）」又は「悪い（3.3%）」と回答している割合の合計は、14.8%となっています。

【宮城県の治安が悪い（どちらかといえば悪い）と感じる理由】

○県全体で、「宮城県の治安が悪い（どちらかといえば悪い）」の回答のうち、「宮城県の治安が悪い（どちらかといえば悪い）と感じる理由」について、回答が最も多かったのは、「１　事件や事故が多くなったと感じるから（75.0%）」で、次いで「２　身近な場所で犯罪が発生しているから（50.9%）」、「３　凶悪事件などがマスコミなどで報じられているから（38.8%）」の順となっています。

【自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安に感じる場所】

○県全体で、「自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安に感じる場所」について、「３　路上（47.0%）」が最も多く、次いで「１　繁華街（42.1%）」、「８　インターネット空間（40.4%）」の順となっています。

【重点的に取り締まってほしい犯罪】

○県全体で、「重点的に取り締まってほしい犯罪」について、「１　殺人、強盗などの凶悪な犯罪（70.5%）」が最も多く、次いで「４　空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪（65.1%）」、「１３　特殊詐欺や悪質商法などの詐欺（60.8%）」の順となっています。

図３９　宮城県の治安をどのように感じているか　（県全体）

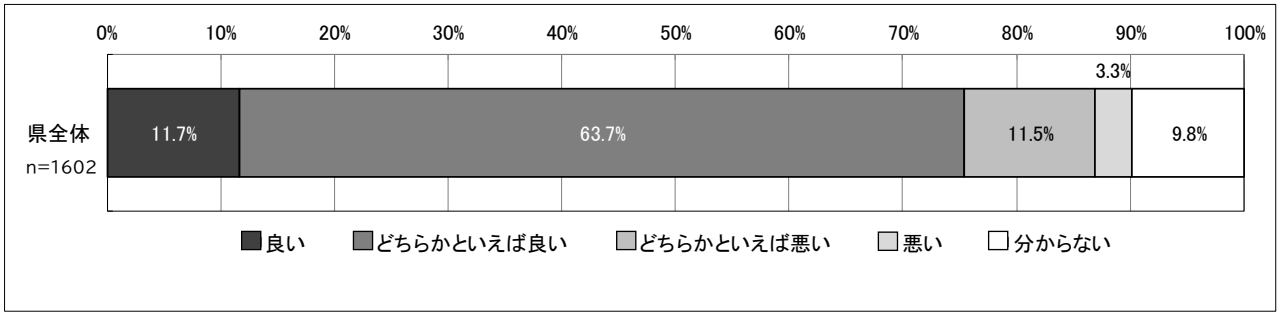
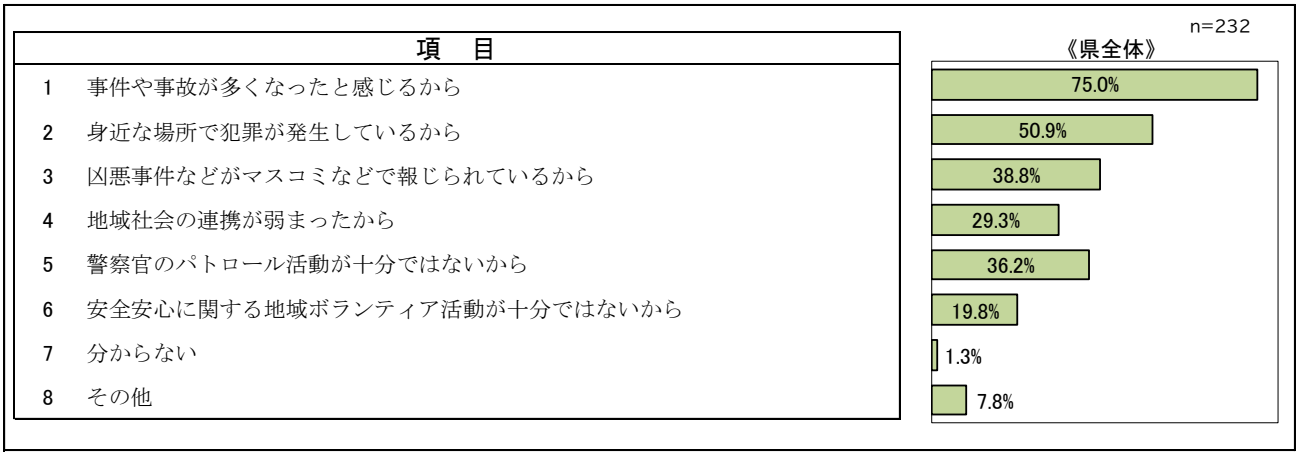


図４０　宮城県の治安が悪い（どちらかといえば悪い）と感じる理由　（県全体）



※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

図４１　自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安に感じる場所　（県全体）

	項　目	《県全体》 n=1579
1	繁華街	42.1%
2	駅	15.8%
3	路上	47.0%
4	電車、バス、飛行機などの乗り物の中	17.1%
5	駐車場、駐輪場	21.0%
6	公園	17.2%
7	自宅	31.5%
8	インターネット空間	40.4%
9	特にない	8.3%
10	その他	2.1%

※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

図４２　重点的に取り締まってほしい犯罪　（県全体）

	項　目	《県全体》 n=1598
1	殺人、強盗などの凶悪な犯罪	70.5%
2	暴行、傷害などの粗暴な犯罪	57.9%
3	すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪	27.0%
4	空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪	65.1%
5	自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪	38.2%
6	誘拐、子供の連れ去りやいたずら	43.4%
7	児童ポルノ、児童買春などの子どもに対する犯罪	36.7%
8	痴漢や不同意わいせつなどの性的犯罪	38.2%
9	ストーカー行為	33.1%
10	麻薬、覚醒剤等の売買、乱用などの薬物犯罪	35.6%
11	インターネットを利用した犯罪	52.1%
12	ＤＶ（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内での犯罪	31.7%
13	特殊詐欺や悪質商法などの詐欺	60.8%
14	飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反	47.2%
15	暴力団による組織犯罪	29.3%
16	来日外国人による組織犯罪	33.5%
17	国際テロ組織などによるテロ行為	20.1%
18	その他	1.8%

※「割合（%）」は複数回答であり、回答者数に占める各テーマの回答数の割合です。

III 参考資料

回答者属性一覧

区分			抽出数		回答者数		回収率（%）	（参考）県人口構成比（%）
			実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）		
県全体			4,000	100.0	1,673	100.0	41.8	100.0
	性 別	男性	2,000	50.0	716	43.3	35.8	48.4
		女性	2,000	50.0	927	56.1	46.4	51.6
		その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）	－	－	9	0.5	－	－
	年 代	10歳代（18歳以上）	69	1.7	12	0.7	17.4	2.5
		20歳代	358	9.0	73	4.4	20.4	11.4
		30歳代	533	13.3	163	9.9	30.6	13.6
		40歳代	707	17.7	239	14.5	33.8	16.9
		50歳代	752	18.8	321	19.4	42.7	15.0
		60歳代	784	19.6	426	25.8	54.3	15.9
		70歳以上	797	19.9	418	25.3	52.4	24.8
	居住地（圏域）	仙南圏域	571	14.3	246	15.1	43.1	7.3
		仙台圏域	572	14.3	215	13.2	37.6	66.4
		大崎圏域	572	14.3	246	15.1	43.0	8.6
		栗原圏域	571	14.3	252	15.4	44.1	2.9
		登米圏域	571	14.3	225	13.8	39.4	3.4
		石巻圏域	572	14.3	225	13.8	39.3	8.1
		気仙沼・本吉圏域	571	14.3	225	13.8	39.4	3.2
	職 業	自営業主・家族従業者	－	－	170	10.2	－	－
		被用者	－	－	864	52.1	－	－
		企業役員・団体代表等	－	－	39	2.4	－	－
		専業主婦（主夫）	－	－	210	12.7	－	－
		学生	－	－	23	1.4	－	－
		無職	－	－	345	20.8	－	－
		その他	－	－	8	0.5	－	－
	業種別	農業、林業	－	－	91	8.9	－	－
		漁業	－	－	15	1.5	－	－
		鉱業、採石業、砂利採取業	－	－	1	0.1	－	－
		建設業	－	－	75	7.4	－	－
		製造業	－	－	183	17.9	－	－
		電気・ガス・熱供給・水道業	－	－	17	1.7	－	－
		情報通信業	－	－	4	0.4	－	－
		運輸業、郵便業	－	－	41	4.0	－	－
		卸売業、小売業	－	－	102	10.0	－	－
		金融業、保険業	－	－	14	1.4	－	－
		不動産業、物品賃貸業	－	－	3	0.3	－	－
		学術研究、専門・技術サービス業	－	－	25	2.5	－	－
		宿泊業、飲食サービス業	－	－	38	3.7	－	－
		教育、学習支援業	－	－	43	4.2	－	－
		医療・福祉	－	－	169	16.6	－	－
		その他のサービス業	－	－	103	10.1	－	－
		公務	－	－	62	6.1	－	－
		その他	－	－	34	3.3	－	－

※1 各属性には不明分があるため、属性ごとの実数の合計と全体の合計は一致しません。

※2 年代別の県人口構成比については、総務省統計局「令和2年国勢調査結果」の18歳以上の男女における割合を基に算出しています。
その他の属性別については、令和6年6月1日現在の選挙人名簿登録者数を基に算出しています。